

医史学関係文献目録 (五十音順)

平成二(一九九〇)年

順天堂大学医史学研究室編

- | | | | |
|----|-----------|----|--------|
| 01 | 単行本 | 19 | 細菌学史 |
| 02 | 医学切手・書画 | 20 | 産婦人科史 |
| 03 | 医学教育 | 21 | 齒学史 |
| 04 | 医学用語 | 22 | 史跡・記念碑 |
| 05 | 医師会・学会 | 23 | 疾病史 |
| 06 | 医史学一般 | 24 | 耳鼻咽喉科史 |
| 07 | 医の倫理 | 25 | 種痘史 |
| 08 | 医療器械 | 26 | 獣医学史 |
| 09 | 医療制度史・医療史 | 27 | 書簡 |
| 10 | 衛生・公衆衛生史 | 28 | 書誌学 |
| 11 | 解剖学史 | 29 | 小児科史 |
| 12 | 眼科史 | 30 | 神経学史 |
| 13 | 看護史 | 31 | 診断学史 |
| 14 | 寄生虫学史 | 32 | 整形外科史 |
| 15 | 教室史 | 33 | 精神医学史 |
| 16 | 軍陣医学史 | 34 | 生物学史 |
| 17 | 形成外科史 | 35 | 西洋医学史 |
| 18 | 外科史 | 36 | 生化学史 |

- | | | | |
|----|----------|----|--------------|
| 37 | 生理学史 | 50 | 仏教医学史 |
| 38 | 地方史 | 51 | 法医学史 |
| 39 | 治療史 | 52 | 放射線医学史 |
| 40 | 伝記 | 53 | 本草学・博物学史 |
| 41 | 伝記(双) | 54 | 麻酔学史 |
| 42 | 伝染病史・防疫史 | 55 | 門人録 |
| 43 | 東洋医学史 | 56 | 薬学史 |
| 44 | 内科史 | 57 | 蘭学史 |
| 45 | 皮膚科史 | 58 | リハビリテーション関係史 |
| 46 | 病院史 | 59 | その他 |
| 47 | 病跡学 | 60 | 中国語文献 |
| 48 | 病理学史 | 61 | 欧文文献 |
| 49 | 風俗史 | | |
- 今回は14、15、17、31、34、36、42、45、47、49、51、52、55、58にあたる文献はありません。

01 単行本

- 『二五年小史思い出集』日本生命ヘルスコンサルタント
- 『印旛村史 通史Ⅱ』
- 『来住彌次郎―その足跡』岡田靖雄(編) 岡田靖雄
- 『近代看護婦発祥一〇〇年記念―看護婦一〇〇年の歩み』日本看護歴史学会
- 『実学史研究Ⅵ』実学史研究会(編) 思文閣出版

- 『国際基督教大学創立—明日の大学へのビジョン（一九四五〜六三年）—』C・W・アイグルハート 国際基督教大学
『目で見るくすりの博物誌（改訂版）』青木充夫等（編）内藤記念くすり博物館
- 『現代日本朝日人物事典』朝日新聞社（編）朝日新聞社
『西洋思想大事典 別巻 索引』荒川幾男他（編）平凡社
『科学の罫』アレクサンダー・コーン 酒井シヅ・三浦雅弘訳 工作舎
- 『江戸幕府旗本人名事典 別巻』石井良助（監修）、小川恭一（編著）原書房
- 『看護とは（一） 看護の概念と看護の歴史』（看護学大系一）井上幸子他（編）小玉香津子他 日本看護協会出版会
『看護史新版看護学全書 別巻六』亀山美知子 メヂカルフレンド社
- 『洋学資料による日本文化史の研究 Ⅲ』古備洋学資料研究会
『白井光太郎著作集第Ⅵ巻本草百家伝・その他』木村陽二郎（編）科学書院
- 『奇跡の薬ベニシリンとフレミング神話』グウィン・マクファーレン 北村二郎訳 平凡社
- 『図録』江戸さいえんず図鑑』SADANORI（編）インテグラ
『明治文化と西洋人』重久篤太郎 思文閣出版
『近代日本・その科学と技術—原典への招待—』紫藤貞昭・矢部一郎（編）弘学出版
- 『眼鏡の社会史』白山晰也 ダイヤモンド社
- 『哺乳動物心臓の刺激伝導系—房室束とPurkinje線維の解剖学的・組織学的研究』田原淳著 須磨幸蔵・島田宗洋・島田達生訳 丸善
- 『十六世紀の世界…技術・天文と解剖—近代の芽生え』中川米造他 週刊朝日百科 世界の歴史七五 朝日新聞社
『近代化の推進者たち』BURKS（編）、梅溪昇（監訳） 思文閣出版
- 『講演会記録二』ボイケルス、ハルム・他 津山洋学資料館
『都市文化と東洋医学』マーガレット・ロック 中川米造訳 思文閣出版
- 『北海道医事文化史料集成 上』（中川五郎治関係文書他） 松本明知 岩波ブックサービスセンター
『北海道医事文化史料集成 下』（魯西亜牛痘全書他） 松本明知 岩波ブックサービスセンター
- 『高木兼寛伝』松田誠 講談社
『インド伝統医学入門—アーユルヴェーダの世界』丸山博（監修）、アーユルヴェーダ研究会（編） 東方出版
- 『青い恐怖 白い街—コレラ流行と近代ヨーロッパ』見市雅俊・高木勇夫・柿本昭人・南直人・川越修 平凡社
- 『慶応義塾大学医学部食養研究所変遷史』向井承子 慶応義塾大学医学部食養研究所変遷史編集委員会
『赤十字物語—日本赤十字社広島県支部百年の歩み—』向井承子 日本赤十字社広島県支部
- 『病の戦後史—体験としての医療—』向井承子 筑摩書房

『元老院會議筆記 後期』明治法制經濟史研究所 元老院會議筆記刊行会

『輝く波形』森田功 毎日新聞社

『臨床六十年 漢方治療百話 第七集』矢数道明 医道の日本社

『病院で死ぬということ』山崎章郎 主婦の友社

『夜鳴く鳥 医学・呪術・伝説』山田慶兒 岩波書店

『蘭学の巨星 杉田玄白・緒方洪庵展』蘭学資料研究会

『医学思想の源流』キング・レスタター、館野元男(監修)、千葉大学医学部山紫会 西村書店

02 医学切手・書画

「」とはの由来(四四)リュウマチ・痛風・かさぶた」Hugh E. Wilkinson Johns 六(一〇)一三八〇～一三八二

「」ことばの由来(四一)皮膚病の一般的な言葉の語源—ウオノメ、モノモライ、発疹など—」Hugh E. Wilkinson 伊藤裕之訳

Johns 六(四)六〇四～六〇六

「」ことばの由来(四二)耳小骨物語—耳小骨の用語の由来と推移

—」飯田収 Johns 六(六)九〇六～九〇八

「医学切手アラカルト(一) AIDSとの戦い」河瀬正晴 Medica

copia Sabbath (一)三〇～三一

「医学切手美術館 十一 医学に貢献した人々(Ⅱ)」河瀬正晴

『透析ライフ』(三四)二五

「医学切手美術館 十二 授乳」河瀬正晴『透析ライフ』(三五)

二五

「医学切手美術館 十三 赤十字」河瀬正晴『透析ライフ』(三六)

二五

「医学切手美術館 十四 輸血」河瀬正晴『透析ライフ』(三七)

二五

「医学切手美術館 十四 輸血」河瀬正晴『透析ライフ』(三七)

二五

「切手で見る輸血事業 三八 献血」河瀬正晴『血液事業』一三

(一)裏表紙

「切手で見る輸血事業 三九 献血推進」河瀬正晴『血液事業』

一三(二)裏表紙

「切手で見る輸血事業 四〇 エイズ撲滅」河瀬正晴『血液事業』

一三(三)裏表紙

「切手で見る免疫血液学(四五) Pasteurization」河瀬正晴

Med Postgrad 二八(一)五八

「切手で見る免疫血液学(四六) 老化」河瀬正晴 Med Postgrad

二八(一)八六

「切手で見る免疫血液学(四七) Syphilis」河瀬正晴 Med Po-

stgrad 二八(一)八四

「切手で見る免疫血(液学(四八) Mendelism」河瀬正晴 Med

Postgrad 二八(一)八四

「切手で見る免疫血液学(四九) AID の原因ウイルスは HIV

なのか?」河瀬正晴 Med Postgrad 二八(三)七九

「切手で見る免疫血液学(五〇) 消毒法の確立」河瀬正晴 Med

Postgrad 二八(三)八〇

「切手で見る免疫血液学(五一) 輸血後移植片対宿主病」河瀬

正晴 Med Postgrad 二八(四)六七

「切手で見る免疫血液学(五二) AIDと薬物静注者」河瀬正晴
Med Postgrad 二八(四)六八

「切手で見る免疫血液学(五三) 輸血によるマラリヤ感染」河
瀬正晴 Med Postgrad 二八(五)六五

「切手で見る免疫血液学(五四) 心臓移植」河瀬正晴 Med Po-
stgrad 二八(五)六六

「切手で見る免疫血液学(五五) 電子顕微鏡」河瀬正晴 Med
Postgrad 二八(六)八九

「切手で見る免疫血液学(五六) 野口英世」河瀬正晴 Med Po-
stgrad 二八(六)九〇

「切手で見る輸血学(二六) 移植」河瀬正晴 Blood(五五)
「切手で見る輸血学(二七) セルヴェトウス」河瀬正晴 Blood
(五七)

「切手で見る輸血学(二八) 人類最初の輸血」河瀬正晴 Blood
(五八)

「切手で見る輸血学(二九) 医神アスクレピオス」河瀬正晴
Blood(六一)

「切手で見る輸血学(三〇) ガレーノス」河瀬正晴 Blood(六
二)

「切手で見る輸血学(三一) ブルーハーヴェ」河瀬正晴 Blood
(六四)

「本岐道平の銅版画『神経血絡開現図』とエウスタキ解剖図」菅
野陽『美術研究』(三四七)一七～三三

「ことばの由来(四〇) 鞆丸と卵巢」若月賢一 Johns 六(一)

一一二～一二四

「ことばの由来(四三) アトロピンとスコポラミン」若月賢一
Johns 六(八)一三六～一三八

03 医学教育

「十九世紀の西ヨーロッパ(大陸)における高等教育システムの
変遷」医学部の場合」石田純郎『洋学資料による日本文化史の
研究』II 一〇三～一一五

「ウトレヒト陸軍軍医学校の廃止意見書——一八六七年のドンデル
スの意見書とフランスの反論——」石田純郎『医譚』(五八)三五
一九～三五二五

「第三高等中学校医学部の講義(第二報)(抄)」大滝紀雄『日本
医史学雑誌』三六(一)六七～六九

「医学史ミニ博物館(五二) 医学教育の樹」大村敏郎『医学の
あゆみ』一五四(八)四九九

「済生学舎廃校の歴史(抄)」唐沢信安『日本医史学雑誌』三六
(一)五〇～五一

「明治初期東京大学医学部卒業生動静一覽(一)」小関恒雄『日
本医史学雑誌』三六(三)二二九～二四七

「医学プロムナード 順天堂本郷キャンパスの建物の移り変り
(一)」酒井シヅ『順天堂医学』三六(一)一三四～一三五

「京都府立医科大学解剖学教室小史」佐野豊『解剖誌』六五(五)
三八三～三八七

「北京の中医学の現状について(抄)」別部智司『日本歯科医史

学会々誌』一七(一)三五～三六

「私立東京学校(一九〇四—一〇〇)について(抄)」横川弘蔵『日本医学雑誌』三六(一)五三～五五

「昭和二五年における『愛知県学校保健概況』(抄)」吉村宅弘、坂本嘉久、米長悦也、谷津三雄『日本歯科医学学会々誌』一七(一)四二～四三

04 医学用語

「用語の解説 鼻翼／鼻前庭／鼻弁」内田豊 Johns 六(一〇)一三七六～一三七九

『○○症候群』と言われる医語をたずねて」奥沢康正『日の眼科』六一(五)四三三～四三九

「病名の由来『病』と『症』」深瀬泰旦 Medical Technology 一八(一)一九

「病名の由来 白内障」深瀬泰旦 Medical Technology 一八(一)一一三

「病名の由来 緑内障」深瀬泰旦 Medical Technology 一八(三)一九一

「病名の由来 黒内障」深瀬泰旦 Medical Technology 一八(四)二八三

「病名の由来 トラウマ」深瀬泰旦 Medical Technology 一八(五)三五五

「病名の由来 鷺口瘡」深瀬泰旦 Medical Technology 一八(六)四五九

「病名の由来 狂犬病」深瀬泰旦 Medical Technology 一八(八)七六三

「病名の由来 自家中毒症」深瀬泰旦 Medical Technology 一八(九)八四五

「病名の由来 消化不良症」深瀬泰旦 Medical Technology 一八(一〇)九二五

「病名の由来 アフタ」深瀬泰旦 Medical Technology 一八(一一)一〇三一

「病名の由来 丹毒」深瀬泰旦 Medical Technology 一八(一二)一一九

「病名の由来 壊血病」深瀬泰旦 Medical Technology 一八(一三)一一九七

「用語の解説 神経ペプチド／サブスタンスP／VIP／C線維／カプサイチン」朴沢孝治 Johns 六(九)一二四〇～一二四三

05 医師会・学会

「日本医師会小史 第七一回 医師法制定までの長い道程(第四回)」医師会前史・その一七『青柳精一』『日本医師会雑誌』一〇三(二)二四五～二四七

「日本医師会小史 第七二回 医師法制定までの長い道程(第五回)」医師会前史・その一八『青柳精一』『日本医師会雑誌』一〇三(四)五四一～五四三

「日本医師会小史 第七三回 医師法制定までの長い道程(第六回)」医師会前史・その一九『青柳精一』『日本医師会雑誌』

- 一〇三(六) 八七九〜八八一
 「日本医師会小史 第七四回 医師法制定までの長い道程(第七回)―医師会前史・その二〇―」青柳精一『日本医師会雑誌』一〇三(八) 一三三七〜一三三九
 「日本医師会小史 第七五回 医師法制定までの長い道程(第八回)―医師会前史・その二一―」青柳精一『日本医師会雑誌』一〇三(一〇) 一六八一〜一六八三
 「日本医師会小史 第七六回 医師法制定までの長い道程(第九回)―医師会前史・その二二―」青柳精一『日本医師会雑誌』一〇三(一二) 二〇四三〜二〇四五
 「日本医師会小史 第七七回 医師法制定までの長い道程(第一〇回)―医師会前史・その二三―」青柳精一『日本医師会雑誌』一〇四(二) 二二二九〜二二四一
 「日本医師会小史 第七八回 医師法制定までの長い道程(第一一回)―医師会前史・その二四―」青柳精一『日本医師会雑誌』一〇四(四) 五六九〜五七一
 「日本医師会小史 第七九回 医師法制定までの長い道程(最終回)―医師会前史・その二五―」青柳精一『日本医師会雑誌』一〇四(六) 八六九〜八七一
 「日本医師会小史 第八〇回 医界展望の『医師法』制定さる―医師会前史・その二六―」青柳精一『日本医師会雑誌』一〇四(八) 一一六五〜一一六七
 「日本医師会小史 第八一回 『医師会規則』の公布―医師会前史・その二七―」青柳精一『日本医師会雑誌』一〇四(一一)

一五二三〜一五二五

「オランダの医史学会について」石田純郎『医譚』(五九) 三五八〜三五八九

「韓国の医史学会に想う」石田純郎『医譚』(五八) 三五四〇〜三五四四

「ロイアル・コレジズについて(抄)」栗本宗治『日本医史学雑誌』三六(一) 八四〜八五

「第七回日本医学会にみられる歯科分科会の内容(抄)」渋谷敏、渋谷幸男、藤井敏博、谷津三雄『日本歯科医史学会々誌』一七(一) 三〇〜三二

「世界的な伝統医学学会はできるのか」津谷喜一郎『医学のあゆみ』一五五(六) 三九三〜三九四

「蘭学者はどのように工夫して西洋語を音訳したか」大友信一『津山洋学資料館講演会記録』(二) 一四〜三四

06 医史学 一般

「医史学と宛字」伊藤貞男『日本医史学雑誌』三六(二) 一五三〜一五八

「医学史ミニ博物館(五三)」医学史と医史学の違い」大村敏郎『医学のあゆみ』一五四(一一) 七七三

「医学いま・むかし 病氣や傷の治療のはじまり」酒井シヅ『笑顔』二一(一) 一八〜一九

「医学いま・むかし 東西の医薬の神様」酒井シヅ『笑顔』二一(三) 一八〜一九

- 「医学いま・むかし 日本の医学の始り」酒井シヅ『笑顔』二一(四) 一八～一九
- 「医学いま・むかし 患者のこころ」酒井シヅ『笑顔』二一(七) 一八～一九
- 「医学いま・むかし 昔の健康法」酒井シヅ『笑顔』二一(九) 一八～一九
- 「医学いま・むかし 江戸時代にもあった健康書」酒井シヅ『笑顔』二一(一一) 一八～一九
- 「医学いま・むかし 日本で初めて翻訳された西洋医学書」酒井シヅ『笑顔』二一(一二) 一八～一九
- 「医学いま・むかし 古代ギリシヤ時代の尿検査」酒井シヅ『笑顔』二一(一三) 一八～一九
- 「医学いま・むかし 血を抜く治療法から輸血への歴史」酒井シヅ『笑顔』二一(一五) 一八～一九
- 「医学いま・むかし 血液型と性格との結びつき」酒井シヅ『笑顔』二一(一七) 一八～一九
- 「医学いま・むかし 日本人の「脳と心」の概念」酒井シヅ『笑顔』二一(一八) 一八～一九
- 「世界の医療史(七九) 五、興隆の世紀(理論的医学の胎動) イアトロ(医) 化学(統一一)」宗田一 Pharma Medica 八(一一) 一四〇～一四四
- 「世界の医療史(八〇) 五、興隆の世紀 イアトロ(医) 化学(統一一)」宗田一 Pharma Medica 八(一二) 一二九～一三三
- 「世界の医療史(八一) 五、興隆の世紀 イアトロ(医) 化学シ
- ルヴェイウス(続)」宗田一 Pharma Medica 八(三) 九一～九四
- 「世界の医療史(八二) 五、興隆の世紀 イアトロ(医) 物理学」宗田一 Pharma Medica 八(四) 二〇三～二〇七
- 「世界の医療史(八三) 五、興隆の世紀 イアトロ(医) 物理学(続)」宗田一 Pharma Medica 八(五) 一三七～一四一
- 「世界の医療史(八四) 五、興隆の世紀 臨床医学の再出発 シデナムとポイル」宗田一 Pharma Medica 八(六) 二一一～二一六
- 「世界の医療史(八五) 五、興隆の世紀 共和制から王政復古へ」宗田一 Pharma Medica 八(七) 一六四～一六八
- 「世界の医療史(八六) 五、興隆の世紀 シデナム」宗田一 Pharma Medica 八(八) 一四四～一四八
- 「世界の医療史(八七) 五、興隆の世紀 シデナム(統一一)」宗田一 Pharma Medica 八(九) 一六三～一六八
- 「世界の医療史(八八) 五、興隆の世紀 シデナム(統一一)」宗田一 Pharma Medica 八(一〇) 一七七～一八二
- 「世界の医療史(八九) 五、興隆の世紀 ブールハーフェ」宗田一 Pharma Medica 八(一一) 一四九～一五三
- 「医史散歩(六) 祈り」堀内きよし『兵庫県医師会報』(四三二) 八二～八五
- 「医史散歩(七) 痘瘡」堀内きよし『兵庫県医師会報』(四三五) 二六～二九
- 「医史散歩(八) 川本幸民」堀内きよし『兵庫県医師会報』(四

三六) 二二～二五

「医史散步(九) 眼科」堀内きよし『兵庫県医師会報』(四三七) 三四～三七

「医史散步(一〇) コレラ」堀内きよし『兵庫県医師会報』(四三八) 六六～六九

「医史散步(一一) 原老柳」堀内きよし『兵庫県医師会報』(四三九) 三九～四二

「医史散步(一二) 皮下注射」堀内きよし『兵庫県医師会報』(四四〇) 二七～二九

「医史散步(一三) 手術」堀内きよし『兵庫県医師会報』(四四一) 二二～二六

「医史散步(一四) 赤十字社」堀内きよし『兵庫県医師会報』(四四二) 二五～二八

「医史散步(一五) 留学」堀内きよし『兵庫県医師会報』(四四三) 二六～二九

「医史散步(一六) 医師会」堀内きよし『兵庫県医師会報』(四四四) 四五～四八

「医史散步(一七) 屠蘇」堀内きよし『兵庫県医師会報』(四四五) 四七～五〇

「砂千代姫君様拝診御用留記 — 彦根藩医三浦大仲尚賢の記録 —」正橋剛二、篠原治道『医譚』(五八) 三五〇七～三五一五

07 医の倫理

「死のイメージの変遷にみる医学と哲学の接近乖離」石渡隆司

『東北哲学会年報』(六) 三七～四六

「医学史にみる医師と患者」酒井シヅ『医とこころ』(二) 二一～四一

「医師と患者 先人から学ぶ医師と患者」酒井シヅ『日本医師会雑誌』一〇三(七) 一〇〇九～一〇二二

08 医療器械

「聴診器の歴史(一三) 現代の聴診器(二) — Harvey 型聴診器」坂本二哉『診療と治療』七八(一) 一七四～一七七

「聴診器の歴史(一四) 現代の聴診器(三) — Littmann 型聴診器」坂本二哉『診療と治療』七八(二) 四〇八～四一一

「聴診器の歴史(一五) 現代の聴診器(四) — Littmann 型聴診器のその後」坂本二哉『診療と治療』七八(三) 六〇六～六一二

「聴診器の歴史(一六) 現代の聴診器(五) — いろいろな創意工夫」坂本二哉『診療と治療』七八(四) 八八二～八八四

「聴診器の歴史(一七) 風変りな聴診器ステレオ聴診器」坂本二哉『診療と治療』七八(五) 一三八七～一三八九

「聴診器の歴史(一八) 完 聴診器の歌」坂本二哉『診療と治療』七八(六) 一五二～一五二六

「血圧モニター血圧測定 of 歴史」栃久保修『臨モニター』一(一) 一九～二六

「人工肝補助装置の開発研究の歴史」山崎善弥『治療学』二四(三) 三九五～四〇〇

09 医療制度史・医療史

- 「江戸幕府の医療制度に関する史料(二)——土岐長元家由緒書など」香取俊光『日本医史学雑誌』三六(二)一五九～一六二
- 「江戸幕府の医療制度に関する史料(三)——河野平之丞家由緒書など」香取俊光『日本医史学雑誌』三六(三)二九五～三〇四
- 「江戸幕府の医療制度に関する史料(四)——文化八年六月録『官医分限帳』」香取俊光『日本医史学雑誌』三六(四)四四九～四五七
- 「日本の医療史(六七) 死の歴史」酒井シヅ『薬事新報』(一五八四)一〇三～一〇七
- 「奈良時代の医療の実態」杉田暉道『日本医史学雑誌』三六(二)一一五～一三一
- 「近世後期における医療思想の基盤(一)——安芸国山県郡大朝村保生堂の場合——」土井作治『実学史研究』VI 一二五～一五四
- 「昭和医療史(二四) 医学生たち」野村拓『月刊保団連』(三二一)八八～九一
- 「昭和医療史(二五) 財界対国民の構図」野村拓『月刊保団連』(三二四)八六～八八
- 「昭和医療史(二六) 国民皆保険へ」野村拓『月刊保団連』(三二六)七八～八一
- 「昭和医療史(二七) 六〇年安保のころ」野村拓『月刊保団連』(三三〇)七四～七七

「昭和医療史(二八) 高度成長と日医」野村拓『月刊保団連』(三三五)七六～七九

「昭和医療史(二九) 医療における日米関係」野村拓『月刊保団連』(三三八)一〇二～一〇五

「昭和医療史(三〇) 医療運動おこる」野村拓『月刊保団連』(三三九)八八～九一

「昭和医療史(三一) 展望された七〇年代」野村拓『月刊保団連』(三四〇)八二～八五

「昭和医療史(三二) “医療運動” vs “医療管理”」野村拓『月刊保団連』(三四一)八四～八七

「昭和医療史(三三) 石油ショック前後」野村拓『月刊保団連』(三四二)八二～八五

「昭和医療史(三四) 弱肉強食の時代」野村拓『月刊保団連』(三四六)一〇〇～一〇四

「昭和医療史(三五) 国際化のなかで」野村拓『月刊保団連』(三四七)九六～九九

「日本医療史(六五完) (第六編) 学術医療一略のために(六)」日戸修一『日医新報』(三四三四)六五～六七

10 衛生・公衆衛生史

- 「特定疾患調査研究の歴史を顧みて」井形昭弘『綜合臨』三九(三)四〇五～四〇六
- 「黎明期の労働衛生史(八七) 大島高任(七) 民営釜石の発展」乾修然『労働衛生ジャーナル』(一六四)一一

「黎明期の労働衛生史」八八〇～大島高任（八）野呂景義の登場」
乾修然『労働衛生ジャーナル』（一六五）二

「黎明期の労働衛生史」八九〇～大島高任（九）釜石その後」乾修然『労働衛生ジャーナル』（一六六）二

「黎明期の労働衛生史」八九〇～野呂景義（一）大阪砲兵工廠」乾修然『労働衛生ジャーナル』（一六七）二

「黎明期の労働衛生史」八九一～野呂景義（二）鉄鋼業の父」乾修然『労働衛生ジャーナル』（一六八）二

「黎明期の労働衛生史」八九二～野呂景義（三）乾修然『労働衛生ジャーナル』（一七〇）二

「黎明期の労働衛生史」八九三～野呂景義（四）官営製鉄の曲折」乾修然『労働衛生ジャーナル』（一七一）二

「黎明期の労働衛生史」八九四～野呂景義（五）鉄鋼一貫へ」乾修然『労働衛生ジャーナル』（一七三）二

「鎌倉期における『疾病』と『公衆衛生』について」潮田恒明『日本社会史研究』（二八）一～七

「安全な予防接種体制を追究して——個別接種回顧談」深瀬泰且『川崎市小児科医会誌』（二二）二四～三一

「文明は病気を変える（一）三」松藤元『労働衛生ジャーナル』（一六三）二

「文明は病気を変える（一四）」松藤元『労働衛生ジャーナル』（一六四）三

「文明は病気を変える（一五）」松藤元『労働衛生ジャーナル』（一六五）三

「文明は病気を変える（一六）」松藤元『労働衛生ジャーナル』（一六六）三

「文明は病気を変える（一七）」松藤元『労働衛生ジャーナル』（一六七）三

「文明は病気を変える（一八）労働災害」松藤元『労働衛生ジャーナル』（一六八）三

「文明は病気を変える（一九）環境の破壊による病気」松藤元『労働衛生ジャーナル』（一六九）三

「文明は病気を変える（二〇）」松藤元『労働衛生ジャーナル』（一七〇）三

「文明は病気を変える（二一）」松藤元『労働衛生ジャーナル』（一七一）三

「文明は病気を変える（二二）」松藤元『労働衛生ジャーナル』（一七三）三

「自然と人口環境——快適環境のフォーックローア——第一部 風土——序にかえて——」三浦豊彦『労働科学』六六（九）四二〇～四三〇

「自然と人口環境——快適環境のフォーックローア——第二部 空気」三浦豊彦『労働科学』六六（一〇）四五九～四七五

「自然と人口環境——快適環境のフォーックローア——第三部 水」三浦豊彦『労働科学』六六（一一）五〇〇～五二二

「続サテライト通信（一）マクロバイオテクス長生法」三浦豊彦『労働科学』四五（一）四四～四五

「続サテライト通信（二）再説「ライム病」——屋外労働者のライム病——」三浦豊彦『労働科学』四五（二）四四～四五

「続サテライト通信(三) スターリン肅清と社会衛生学者國崎

定洞」三浦豊彦『労働の科学』四五(三)三四〜三五

「続サテライト通信(四) 頭髮と砒素」三浦豊彦『労働の科学』

四五(四)四二〜四三

「続サテライト通信(五) 暉峻義等生誕一〇一年」三浦豊彦

『労働の科学』四五(五)三六〜三九

「続サテライト通信(六) 蜂毒死」三浦豊彦『労働の科学』四

五(六)三四〜三五

「続サテライト通信(七) 炭鉱坑内作業」三浦豊彦『労働の科

学』四五(七)三二〜三三

「続サテライト通信(八) 世界禁煙デー」三浦豊彦『労働の科

学』四五(八)三八〜三九

「続サテライト通信(九) 第二次大戦中の朝鮮人労働者の調査」

三浦豊彦『労働の科学』四五(九)三八〜三九

「続サテライト通信(一〇) 公害にかけた人生」田尻宗昭・萩

野昇」三浦豊彦『労働の科学』四五(一〇)四二〜四三

「続サテライト通信(一一) まいまいず井戸」三浦豊彦『労働

の科学』四五(一一)四二〜四三

「続サテライト通信(一二) 万歩計」三浦豊彦『労働の科学』

四五(一二)四二〜四三

「特集:あるく ナンバ(ナンバン) 歩行」三浦豊彦『労働の科

学』四五(三)一七〜二〇

「目で見える労働と健康の歴史(その七) 一 大正デモクラシー時

代と大原社会問題研究所の創立」三浦豊彦『労研維持会資

料』(一二四四)

11 解剖学史

「解体新書にみる脈管学(七)」大城孟 Med Postgrad 二八(一)

二九〜四〇

「解体新書にみる脈管学(八)」大城孟 Med Postgrad 二八(一)

一一〜一二六

「解体新書にみる脈管学(九)」大城孟 Med Postgrad 二八(三)

一九四〜二〇九

「解体新書にみる脈管学(一〇)」大城孟 Med Postgrad 二八

(四)二六八〜二七九

「解体新書にみる脈管学(一一)」大城孟 Med Postgrad 二八

(五)三二八〜三四三

「解体新書にみる脈管学(一二)」大城孟 Med Postgrad 二八

(六)三九六〜四二〇

「ポルトレットでたどる解剖学の歴史」河西達夫『日本医事新報

ジュニア版』(二九八)二八〜二九

「解剖図の歴史(第一回)解剖図の読み方 人はヒトをどう見て

きたか」布施英利、養老孟司『医療』九〇』六(一)一一〜一

三

「解剖図の歴史(第二回)「死体の誕生」人はヒトをどう見てき

たか」布施英利、養老孟司『医療』九〇』六(一)一一〜一三

「解剖図の歴史(第三回)人体のイメージの大きさ」人はヒトを

どう見てきたか」布施英利、養老孟司『医療』九〇』六(三)

一二〇一三

「解剖図の歴史(第四回) 血液循環の矛盾 人はヒトをどう見てきたか」布施英利、養老孟司『医療, 九〇』六(四) 一一〇一三

「解剖図の歴史(第五回) 電子テクノロジーで描く人体 人はヒトをどう見てきたか」布施英利、養老孟司『医療, 九〇』六(五) 一一〇一三

「解剖図の歴史(第六回) 山脇東洋の解剖 人はヒトをどう見てきたか」布施英利、養老孟司『医療, 九〇』六(六) 一一〇一三

「解剖図の歴史(第七回) 身体が消えた 人はヒトをどう見てきたか」布施英利、養老孟司『医療, 九〇』六(七) 一一〇一三

「解剖図の歴史(第八回) 江戸の『立体派』解剖図 人はヒトをどう見てきたか」布施英利、養老孟司『医療, 九〇』六(八) 一一〇一三

「解剖図の歴史(第九回) 手塚治虫と『腑分け』の図 人はヒトをどう見てきたか」布施英利、養老孟司『医療, 九〇』六(九) 一一〇一三

「解剖図の歴史(第一〇回) 明治の美術解剖学 人はヒトをどう見てきたか」布施英利、養老孟司『医療, 九〇』六(一〇) 一一〇一三

「解剖図の歴史(第一一回) プラスティネーションされた人体 人はヒトをどう見てきたか」布施英利、養老孟司『医療, 九〇』六(一一) 一一〇一三

「解剖図の歴史(第一二回) 近未来の解剖図 人はヒトをどう見てきたか」布施英利、養老孟司『医療, 九〇』六(一二) 一一〇一三

12 眼科史

「医学随筆 京都眼科医の誕生(メモ六)」奥沢康正『京都眼科医会会報』(五六) 八〇一七

「医学随筆 京都眼科医の誕生(メモ七)」奥沢康正『京都眼科医会会報』(五七) 一一〇一三

「切手が語る医学史①盲人福祉に貢献した人々」奥沢康正『月刊保団連』三四六(七二) 七七

「切手が語る医学史②歴史上著名な盲人・盲人の職業の切手」奥沢康正『月刊保団連』三四七(六二) 六五

13 看護史

「看病教程草案(救護看護婦用) 第一卷(昭和一七年四月刊) についての第三報」植木清二、湯浅高之、小林一日出、飯沼義久、荒井照夫、屋代正幸『日本歯科医史学会誌』一六(三) 一七四

「訪問看護の歴史」木下安子『看護MOOK』(三四) 一一〇一三〇

「旧日本軍における看護」長門谷洋治『北陸医史』一一(一) 一五九〇六二

「精神科の看護記録について —明治・大正期から現在—」萩野好子、金川克子、泉キヨコ、奥菊枝『北陸医史』一一(一) 一〇一三

五〇二八

『看病教程草案(救護看護婦用)』第一卷(昭和一七年四月刊) についての補遺(抄) 湯浅高之、植木清二、藤野珣男、斎藤 憲一、屋代正幸『日本歯科医史学会々誌』一六(三)一七四〜 一七五

16 軍陣医学史

「日本に於ける軍制の展開(V)第二章 明治初期の軍制(下)」 大場昭『国防』三九(四)九二〜一一〇
「軍陣歯科学(第六報)―陸軍歯科医将校制度ニ就テ―(抄)」 落合俊輔、金子賢司、谷津三雄、新国敏彦『日本歯科医史学会 々誌』一七(一)二九〜三〇
「明治戊辰戦争越後口派遣 会津藩従軍医師の記録に就いて (抄)」 浦原宏『日本医史学雑誌』三六(一)四四〜四六
「大東亜戦争における野戦病院(抄)」 黒澤嘉幸『日本医史学雑誌』三六(一)一〇六〜一〇八

18 外科史

「乳腺疾患治療の歴史 日本の乳腺の外科 截乳岩図まで」安藤 博『乳癌の臨』五(一)八九〜九四
「乳腺疾患治療の歴史 日本の乳腺の外科 幕末から明治初期ま で」安藤博『乳癌の臨』五(二)二八五〜二九二
「病院の発展と外科」大村敏郎『臨外』四五(一)二九
「開頭術の歴史」北村勝俊『臨床と研究』六七(三)五〜八

「胃全摘術式の歴史(一)」近藤達平『外科』五二(三)二六三〜二七三

「胃全摘術式の歴史(二)」近藤達平『外科』五二(四)三七五〜三八四

「乳癌の手術」酒井シヅ Mamma(八)裏表紙

「初期ルネサンスの外科と乳癌」酒井シヅ Mamma(九)裏表 紙

「円鋸術ヲ行フ脳傷患者」日本に於ける脳外科の最初の手術」 関野宏明 Clin Neurosci 八(九)一〇四四〜一〇四五

19 細菌学史

「黄(疸)出血レプトスピラ病(ワイル病) 病原体発見七五周年 を記念して」小林讓『感染症誌』六四(七)八七三〜八七四
「日本人による病原微生物の発見の歴史(一)」秦藤樹 BIO me- dica 五(一)八九〜九一

「日本人による病原微生物の発見の歴史(二)」秦藤樹 BIO me- dica 五(二)一九六〜一九九

「消毒法の歴史について(Ⅲ)―テリオンとハルステッドについ て―」本間邦則『日本歯科医史学会々誌』一六(三)一七一

20 産婦人科史

「助産婦の歴史(七七) 近代の助産婦(その四七) 一九世紀の助 産婦(その一一)」石原力『ベリネイタルケア』九(一)七一〜七二

「助産婦の歴史(七八) 近代の助産婦(その四八) 一九世紀の助産婦(その一二)」石原力『ペリネイタルケア』九(二) 一六六～一六七

「助産婦の歴史(七九) 近代の助産婦(その四九) 一九世紀の助産婦(その一三)」石原力『ペリネイタルケア』九(三) 二四〇～二四二

「助産婦の歴史(八〇) 近代の助産婦(その五〇) 一九世紀の助産婦(その一四)」石原力『ペリネイタルケア』九(四) 三四四～三四六

「助産婦の歴史(八一) 近代の助産婦(その五一) 一九世紀の助産婦(その一五)」石原力『ペリネイタルケア』九(五) 四三七～四三九

「助産婦の歴史(八二) 近代の助産婦(その五二) 一九世紀の助産婦(その一六)」石原力『ペリネイタルケア』九(六) 五二五～五二六

「助産婦の歴史(八三) 近代の助産婦(その五三) 一九世紀の助産婦(その一七)」石原力『ペリネイタルケア』九(七) 六一六～六一七

「助産婦の歴史(八四) 近代の助産婦(その五四) 一九世紀の助産婦(その一八)」石原力『ペリネイタルケア』九(八) 七〇一～七〇二

「助産婦の歴史(八五) 近代の助産婦(その五五) 一九世紀の助産婦(その一九)」石原力『ペリネイタルケア』九(九) 七九六～七九八

「助産婦の歴史(八六) 近代の助産婦(その五六) 一九世紀の助産婦(その二〇)」石原力『ペリネイタルケア』九(一〇) 九〇九～九一〇

「助産婦の歴史(八七) 近代の助産婦(その五七) 一九世紀の助産婦(その二一)」石原力『ペリネイタルケア』九(一一) 九八六～九八七

「助産婦の歴史(八八) 近代の助産婦(その五八) 一九世紀の助産婦(その二二)」石原力『ペリネイタルケア』九(一二) 一〇六八～一〇七〇

「『近代産婆』に関する研究とそのプロセス」西川麦子『看研』二(二) 二二九～二三九

「桜井産婆学校のこと」吉川竜子『助産婦誌』四(七) 六一六～六一一

21 歯 学 史

「シンポジウム」歯科医学概論のルーツをさぐる(抄)『日本歯科医史学会々誌』一七(一) 一一

「歯みがきラベル考(抄)」石橋肇、谷津三雄、渋谷敏、坂本嘉久『日本歯科医史学会々誌』一六(三) 一九五～一九六

「明治四三年花沢鼎著の病理組織学書三部作の書誌学(抄)」太田実、森山徳長、小幡哲夫、竹島弘道、西尾宏英『日本歯科医史学会々誌』一七(一) 五二～五四

「江戸末期に伝えられた矯正歯科 ―外科必読にみられた術式紹介―(抄)」大野肅英、新藤恵久『日本歯科医史学会々誌』一

七(一)一九

「第五回内国勸業博覧会歯科出品物について審査結果 第二報
歯磨について」大橋正敬『日本歯科医史学会々誌』一六(三)
一八一〜一八二

「第五回内国勸業博覧会の石膏出品物とその審査結果」大橋正敬、
西山實、片山幸太郎、飯塚秀人、掛谷昌宏、斉藤仁弘『日本歯
科医史学会々誌』一六(二)一一二〜一二二

「水窪のツゲ(抄)」小沢享司、新藤恵久『日本歯科医史学会々
誌』一七(一)二二

「軍陣歯科学(第四報)」落合俊輔、古井秀鑄、谷津三雄、滝口
久、新国俊彦『日本歯科医史学会々誌』一六(三)一七八〜一
七九

「歯科用内視鏡の開発とその歴史的考察(抄)」片桐正隆『日本
歯科医史学会々誌』一六(三)一八〇

「骨製歯刷子を特に主張する学理的根拠」について(抄)「金城
喜代美、吉田和子、渡辺有子、谷津三雄『日本歯科医史学会々
誌』一七(一)四四〜四五

「高山歯科医学院の校舎・設備について(抄)」亀谷博昭、森山
徳長、白川尚、石川達也、長谷川正康『日本歯科医史学会々
誌』一七(一)三六〜三七

「シンポジウム」佐藤運雄先生の考え方の基本について(抄)「
工藤逸郎『日本歯科医史学会々誌』一七(一)一三

「石黒忠恵著『外科説約』およびアグニニー著鳥谷部政人訳『外
科新論』の歯科治療法について(抄)」小坂剛也、森山徳長、

太田実、長谷川正康『日本歯科医史学会々誌』一七(一)一九
〜二〇

「シンポジウム 歯科医学概論の軌跡(抄)」榊原悠紀田郎『日
本歯科医史学会々誌』一七(一)一一

「歯科に関する引札(抄)」坂本嘉久、谷津三雄、渋谷敏、石橋
肇『日本歯科医史学会々誌』一六(三)一九六

「今田齒科口腔外科医院発行の小冊子「口腔衛生」について
(抄)」佐久間優、金城喜代美、浜野和代、谷津三雄、今田喬士
『日本歯科医史学会々誌』一七(一)四三〜四四

「明治期齒科病理学書の比較書誌学的研究(抄)」塩津二郎、森
山徳長、石川達也、長谷川正康『日本歯科医史学会々誌』一六
(三)一九三〜一九四

「E. Jenner の著作の書誌学とその経年的追跡(抄)」塩津二郎、
森山徳長、奥田克爾、高添一郎『日本歯科医史学会々誌』一七
(一)五五〜五六

「ペンシルバニア大学歯学部と W. D. Miller の関係について
(抄)」塩津二郎、森山徳長、小幡哲夫、奥田克爾、高添一郎、
『日本歯科医史学会々誌』一六(三)二〇二〜二〇三

「ペンシルバニア大学歯学部と W. D. Miller の関係について」塩
津二郎、森山徳長、小幡哲夫、奥田克爾、高添一郎『日本歯科
医史学会々誌』一六(三)二四七〜二五三

「歯科に関する医学博士(抄)」渋谷敏、池田直、谷津三雄、滝
口久『日本歯科医史学会々誌』一七(一)三二〜三三

「歯科用照明の歴史(抄)」下総高次『日本歯科医史学会々誌』

一六(三) 一八一

「歯科用蒸和ゴムの歴史について」下総高次『日本歯科医史学会々誌』一七(一)二二三～二四

「縄文人と古代メキシコ原住民にみられる歯科風俗について(抄)」新藤恵久、大貫泰男『日本歯科医史学会々誌』一七(一)三四～三五

「中原市五郎の考案した咬合器(抄)」新藤恵久、大貫泰男『日本歯科医史学会々誌』一六(三)一九四～一九五

「木床義歯の起源と完成について」新藤恵久、大野肅英『日本歯科医史学会々誌』一六(三)一九八

「御蔵島のツゲ(抄)」新藤恵久、新藤勝之『日本歯科医史学会々誌』一七(一)二三

「長野県諏訪の入歯師(抄)」新藤恵久、長谷川弥『日本歯科医史学会々誌』一七(一)二二

「古代人の歯の穿孔実験(抄)」杉本茂春『日本歯科医史学会々誌』一六(三)一九七～一九八

「説文解字にみる歯学概論(抄)」杉本茂春『日本歯科医史学会々誌』一七(一)三三三～三四

「山口秀雄著『歯科美学』について(抄)」鈴木雄士、新藤恵久『日本歯科医史学会々誌』一六(三)一七一～一七二

「フオシャル手稿の分析 手稿の訂正、加筆箇所注目して(一)」高山直秀『日本歯科医史学会々誌』一六(三)一六二～一六六

「フオシャル手稿の分析 手稿の改変箇所注目して(その二)」

(抄)高山直秀『日本歯科医史学会々誌』一六(三)一九二～一九三

「フオシャル手稿の分析(九)」高山直秀『日本歯科医史学会々誌』一六(二)一〇九～一一一

「邦訳『人の歯の博物学』(一〇)」高山直秀『日本歯科医史学会々誌』一七(一)七七～八〇

「明治大正期歯科矯正学書の比較書誌学的研究(抄)」竹島弘道、森山徳長、栗山美子、西尾宏英、古屋嘉男、長谷川正康『日本歯科医史学会々誌』一六(三)一九九

「昭和八年奥村鶴吉が内務省に提出した歯科材料に関する調査報告書とその後(抄)」竹島弘道、森山徳長、松本実、栗山美子、長谷川正康『日本歯科医史学会々誌』一七(一)五一～五二

「東京歯科大学校章・校旗制定の経緯について(抄)」田辺明、森山徳長、熱田俊之助、太田実、石川達也、長谷川正康『日本歯科医史学会々誌』一七(一)二七～二八

「固齡草(一名歯牙養生譚)の書誌学」田辺明、森山徳長、石川達也、長谷川正康、榊原悠紀田郎『日本歯科医史学会々誌』一六(三)二五四～二五九

「固齡草(一名歯の養生譚)の書誌学(抄)」田辺明、森山徳長、石川達也、長谷川正康、榊原悠紀田郎『日本歯科医史学会々誌』一六(三)一七七～一七八

「口腔衛生普及セット」一九五三年版(抄)土屋裕子、清澤美智子、武田和久、谷津三雄『日本歯科医史学会々誌』一七(一)

三九〇四〇

「旧制および新制東京歯科大学進学課程開設とその後の発展(抄)」戸沢行夫、中山誠、金光秀明、石川達也、長谷川正康『日本歯科医史学会々々誌』一七(一)二五〇二六

「『聖濟総録』における歯牙疾患の分類(抄)」戸出一郎『日本医史学雑誌』三六(一)一〇〇一二

「シンポジウム『島峯徹の歯科医学概論』(抄)」戸出一郎『日本歯科医史学会々々誌』一七(一)一四〇一五

「『甲乙経』に表れる歯病について(抄)」戸出一郎、別部智司、佐藤恭道、雨宮義弘『日本歯科医史学会々々誌』一六(三)一九〇一九一

「『諸病源候論』における歯齲候について」戸出一郎、別部智司、佐藤恭道、雨宮義弘『日本歯科医史学会々々誌』一六(三)一八九一九〇

「腹證と歯痛について(抄)」西卷明彦、屋代正幸、飯淵良幸、百瀬深志『日本歯科医史学会々々誌』一七(一)五七五八

「京都・ぬりこべ地蔵(抄)」蓮見壽伯『日本歯科医史学会々々誌』一七(一)五六〇七

「旧制東京歯科大学の学制・教科書・教授陣について(抄)」長谷川正康、森山徳長、石川達也、高添一郎、金竹哲也『日本歯科医史学会々々誌』一六(三)二〇一〇二〇二

「新制東京歯科大学の学制・教科書・教授陣などについて(抄)」長谷川正康、森山徳長、石川達也、高添一郎、金竹哲也『日本歯科医史学会々々誌』一七(一)二六〇二七

「クラスの発展と変遷、および我が国に於ける無鑑着線鈎の考案者について(抄)」平田幹男『日本歯科医史学会々々誌』一七(一)二四〇二五

「野口英世纂訳『病理学的細菌学的検究術式綱要』『全』の書誌学(抄)」福本裕、森山徳長、奥田克爾、高添一郎『日本歯科医史学会々々誌』一七(一)五四四五

「湯島聖堂に祭祀される神農像をめぐって(抄)」藤野瑠男、手塚裕文、斉藤憲一、西村好一、小林一日出、飯淵義久、植木清二、湯浅高之、荒井照夫、屋代正幸『日本歯科医史学会々々誌』一七(一)五七

「咬合形式の研究の歴史」本間邦則『日本歯科医史学会々々誌』一六(三)二二八〇二二三七

「歯科臨床における注射法の導入について」本間邦則『日本歯科医史学会々々誌』一六(三)一五六〇一六一

「シンポジウム 中原市五郎の歯学概論(抄)」本間邦則『日本歯科医史学会々々誌』一七(一)一六

「先天性梅毒における歯の形態異常の研究史(抄)」本間邦則『日本医史学雑誌』三六(一)九〇一〇

「"Humorous Delineation of the Passions"における抜歯風俗について(抄)」松崎洋子、戸出一郎『日本歯科医史学会々々誌』一六(三)一八九

「東洋女子歯科医学専門学校の寄宿舎の規則(抄)」馬渡亮司、武藤優子、金子守男、谷津三雄『日本歯科医史学会々々誌』一七(一)三三〇三九

「シンポジウム『血腸守之助の歯科医学概論』(抄)」森山徳長

『日本歯科医史学会々々誌』一七(一)一七〇〜一八

「始めて米国で出版された歯科医学書(その四)―R・C・スキナー著『ひとの歯牙に関する論説』の和訳(その二)」森山徳

長『日本歯科医史学会々々誌』一六(二)九九〜一〇三

「始めて米国で出版された歯科医学書(その五)―R・C・スキナー著『ひとの歯牙に関する論説』の和訳(その三)」森山徳

長『日本歯科医史学会々々誌』一六(二)一〇四〜一〇八

「東京歯科医学専門学校歯科学叢書 第三編 照内昇著『歯科生理学』の書誌学」森山徳長、熱田俊之助、白川尚、市之川武

『日本歯科医史学会々々誌』一六(三)一五二〜一五五

「明治期歯科医学書の比較書誌学的研究」森山徳長、石川達也、

長谷川正康『日本歯科医史学会々々誌』一七(二)五九〜六三

「東京歯科医学専門学校歯科学叢書 第二編 ドクトル榎本美彦著『鑲嵌法』の書誌学」森山徳長、亀谷博昭、小幡哲夫、石川

達也、長谷川正康『日本歯科医史学会々々誌』一六(三)一四七

〜一五一

「明治期歯科病理学書の比較書誌学的研究」森山徳長、塩津二郎、

石川達也、長谷川正康『日本歯科医史学会々々誌』一七(二)六

四〜七〇

「ペンシルバニア大学歯学部留学中の奥村鶴吉の人物像につい

て」森山徳長、高添一郎、石川達也、長谷川正康『日本歯科医

史学会々々誌』一六(三)二四〇〜二四六

「ペンシルバニア大学歯学部留学中の奥村鶴吉の人物像につい

て」森山徳長、高添一郎、石川達也、長谷川正康『日本歯科医

史学会々々誌』一六(三)二四〇〜二四六

(抄)」森山徳長、高添一郎、石川達也、長谷川正康『日本歯科医史学会々々誌』一六(三)二〇〇〜二〇一

「明治大正期矯正歯科学書の比較書誌学的研究」森山徳長、竹島

弘道、西尾宏英、栗山美子、古屋嘉男、長谷川正康『日本歯科

医史学会々々誌』一七(一)七一〜七六

「東京歯科医学専門学校歯科学叢書 第一編 花沢鼎纂訳『保存

歯科学』の書誌学」森山徳長、田辺明、小幡哲夫、石川達也、

長谷川正康『日本歯科医史学会々々誌』一六(三)一四一〜一四

六

「東京歯科医学院の校地・校舎・設備について(抄)」山岸東太

郎、森山徳長、古屋嘉男、市之川武、石川達也『日本歯科医史

学会々々誌』一七(一)三七〜三八

「日本海軍歯科医科士官の歴史(V) 原田朴哉軍医少監と日露戦

争(抄)」山崎智『日本歯科医史学会々々誌』一六(三)一七六

〜一七七

「『ライオン歯磨の発達』について(抄)」吉井秀鏘、出地弘、栗

山稔、谷津三雄、今田喬士『日本歯科医史学会々々誌』一七(二)

四〇〜四二

「バライト氏撰書 小林義直訳述 歯科提要初版について(抄)」

吉村宅弘、米長悦也、松本好正、谷津三雄、今田喬士『日本歯

科医史学会々々誌』一六(三)一七五〜一七六

22 史跡・記念碑

「野口英世箕面銅像搬入経路と除幕者」石原理年『日本医史学雑

誌』三六(一) 九八〜一〇〇

「医学史ミニ博物館(五五) ラヴァル市でつくったバレ四〇〇年のシンボルマーク」大村敏郎『医学のあゆみ』一五五(八) 五

一九

「医学史ミニ博物館(五六) フランス・ラヴァル市のバレ四〇〇年祭」大村敏郎『医学のあゆみ』一五五(一一、一二) 七三
九

「ルイ・パストゥールの生家」大村敏郎『臨外』四五(二) 二三
五

「パストゥール研究所の狂犬と闘う少年像」大村敏郎『臨外』四五(四) 四八八

「聴診器発明のレリーフ(二九)」大村敏郎『臨外』四五(五) 六〇〇

「灸寺・羽栗病院訪問記」岡田靖雄『日本医学史学雑誌』三六(四) 四〇一〜四一一

「病気に効く石造物(三〇) 柏のとげぬき地藏」川村純『千葉医師会誌』四二(一) 五五〜五七

「くすりの神様—日本の神様(一) 水天宮」蔵方宏昌『ちゅうががい』裏表紙(二七三)

「くすりの神様—日本の神様(二) 鵜戸神宮」蔵方宏昌『ちゅうががい』裏表紙(二七四)

「くすりの神様—日本の神様(三) 田懸神社」蔵方宏昌『ちゅうががい』裏表紙(二七五)

「くすりの神様—日本の神様(四) 子育安産地藏」蔵方宏昌『ちゅうががい』裏表紙(二七六)

「くすりの神様—日本の神様(五) 千葉寺」蔵方宏昌『ちゅうががい』裏表紙(二七七)

「くすりの神様—日本の神様(六) 不洗観音寺」蔵方宏昌『ちゅうががい』裏表紙(二七八)

「くすりの神様—日本の神様(七) 大泉神社」蔵方宏昌『ちゅうががい』裏表紙(二七九)

「くすりの神様—日本の神様(八) 放光寺」蔵方宏昌『ちゅうががい』裏表紙(二八〇)

「くすりの神様—日本の神様(九) 足尾神社」蔵方宏昌『ちゅうががい』裏表紙(二八一)

「くすりの神様—日本の神様(一〇) 羽田神社」蔵方宏昌『ちゅうががい』裏表紙(二八二)

「くすりの神様—日本の神様(一一) 音無神社」蔵方宏昌『ちゅうががい』裏表紙(二八三)

「くすりの神様—日本の神様(一二) 金山神社」蔵方宏昌『ちゅうががい』裏表紙(二八四)

「都下 医家名墓散策(一九) 喜多村直寛」小曾戸洋『漢方の臨床』三七(三) 三二〇〜三二二

「都下 医家名墓散策(二〇) 奥山玄建」小曾戸洋『漢方の臨床』三七(四) 四二一〜四二三

「都下 医家名墓散策(二二) 幕府医官 船橋氏」小曾戸洋『漢方の臨床』三七(七) 七七七〜七七九

「探訪 医の民俗(一) はじめに 癒しへの旅路」立川昭二『東

「洋薬事報」三一(四) 一八〇二〇

「探訪 医の民俗(二) 神農さん(少彦名神社)」立川昭二『東洋薬事報』三一(五) 一八〇二〇

「探訪 医の民俗(三) 咳の爺婆(弘福寺) 蒲牛(牛島神社)」立川昭二『東洋薬事報』三一(六) 一八〇二〇

「探訪 医の民俗(四) ガン封じ寺(西浦不動) 中風除け寺(ハズ観音)」立川昭二『東洋薬事報』三一(七) 一八〇二〇

「探訪 医の民俗(五) 瘡守稲荷(上行寺) 蛇苦止堂(妙本寺)」立川昭二『東洋薬事報』三一(八) 一八〇二〇

「探訪 医の民俗(六) 嫁いらず観音 首無地藏」立川昭二『東洋薬事報』三一(九) 二二〇二四

「探訪 医の民俗(七) 釘拔地藏(石像寺) 星見地藏(西雲寺) 椿寺(地藏院)」立川昭二『東洋薬事報』三一(一〇) 一八〇二〇

「探訪 医の民俗(八) 鬼王神社 旭地藏(成覚寺) 奪衣婆(正受院)」立川昭二『東洋薬事報』三一(一一) 一八〇二〇

「探訪 医の民俗(九) おびんずる(善光寺) / 宗善寺(信濃礼所第二番)」立川昭二『東洋薬事報』三一(一二) 一八〇二〇

「探訪 医の民俗(一〇) 石切神社/生駒聖天」立川昭二『東洋薬事報』三三(一) 一八〇二〇

「探訪 医の民俗(一一) あごなし地藏(広濟寺) 三体地藏(西雲寺) まっ黒地藏(慈眼寺)」立川昭二『東洋薬事報』三三(二) 一八〇二〇

「探訪 医の民俗(一二) 大根/梯子地藏」立川昭二『東洋薬事報』三三(三) 一八〇二〇

「報」三三(三) 一八〇二〇

「鞆の浦十一面観音像について(第一報)」長谷川正康『日本歯科医学学会誌』一六(三) 一八三〇一八五

「九〇年代の訪問(二) 住友家発祥の地・京都を訪ねる(Ⅰ) 泉屋博古館」三浦豊彦『労働の科学』四五(二) 二二〇二五

「九〇年代の訪問(三) 住友家発祥の地・京都を訪ねる(Ⅱ) 住友資料展示館・住友本部(有芳園)・住友史料館」三浦豊彦『労働の科学』四五(四) 二〇〇三三

「九〇年代の訪問(七) 労研図書館蔵『温古堂文庫』の古里を訪ねる(Ⅰ) 備前金川・難波抱節旧邸」三浦豊彦『労働の科学』四五(八) 二八〇三一

「九〇年代の訪問(八) 労研図書館蔵『温古堂文庫』の古里を訪ねる(Ⅱ) 難波抱節と『温古堂文庫』」三浦豊彦『労働の科学』四五(九) 二五〇二九

23 疾病史

「ブライト氏病の日本への最初の紹介について(抄)」会田恵『日本医学雑誌』三六(一) 九〇〇九一

「痛みの歴史と文化および社会(その一)」握美和彦『医療』九〇(六) 七六〇七九

「我が国における胃癌研究の歴史(会)」石川浩一『日消外会誌』三三(六) 一一九二

「腎損傷分類の変遷 その歴史的考察(総説)」岡本健、吉岡敏治『日外傷研会誌』四(二) 一二九〇一三四

「健康と病氣——生殖医学」蔵方宏昌『ブリタニカ国際年鑑一九九〇』三一五～三一六

「古医書にみる風の病と風邪、そして寒冒と感冒」蔵方宏昌『薬事日報』(七六三五)一九～二二

「黄帝内经・素問」における三叉神経痛に関する記載」周大成『日本歯科医史学会誌』一六(四)二三八～二三九

「大仏と流行病」中島陽一郎『薬の知識』四一(六)二〇〇～二二〇
「横浜における梅毒」の史的研究」中西淳朗『保険医の臨床』(三〇四)三〇～四九

「ギーツ・肺病・ロマン主義——結核の比較文化史」福田真人『名古屋大学総合言語文化論集』XI(一)一～四三

「日本らしい史(四九)」山本俊一『多磨』一月、一〇～一四
「日本らしい史(五〇)(五一)」山本俊一『多磨』二、三月、二～六

「日本らしい史(五二)——(五八)」山本俊一『多磨』四、一〇月、二～六
「日本らしい史(五九)(六〇)」山本俊一『多磨』一一、二月、五～九

「学説・診療の変遷(二六)糖尿病学史探訪」インスリン発見への道」二宮陸雄『臨科学』二六(一)一八～二四

「学説・診療の変遷(二七)プロスタグランジン」山本尚三『臨科学』二六(二)五〇～五〇六

「学説・診療の変遷(二八)性病」岡本昭二『臨科学』二六(三)三七八～三八三

「学説・診療の変遷(二九)らい」山本俊一『臨科学』二六(四)

五〇一～五〇六

「学説・診療の変遷(三〇)肝炎」病因論の変遷から治療まで」織田敏次『臨科学』二六(五)六二九～六三三

「学説・診療の変遷(三一)てんかん」秋元波留夫『臨科学』二六(六)七五七～七六三

「学説・診療の変遷(三二)痛風」御巫清允『臨科学』二六(七)八八九～八九五

「学説・診療の変遷(三三)膠原病」塩川優一『臨科学』二六(八)一〇一七～一〇三三

「学説・診療の変遷(三四)結核」山村好弘『臨科学』二六(一〇)一三五八～一三七〇

「学説・診療の変遷(三五)前立腺肥大症」友吉唯夫『臨科学』二六(一一)一四九四～一五〇八

「学説・診療の変遷(三六)白内障」その歴史とロマン」福島義一『臨科学』二六(一二)一六一三～一六二〇

24 耳鼻咽喉科史

「古典あれこれ Grandenigo の前後」飯沼壽孝 Johns 六(七)一〇二四～一〇二七

「古典あれこれ ル・フォール (Le Fort) の口と」飯沼壽孝 Johns 六(一一)一七六八～一七七二

「古典あれこれ 鼻の落ちた話」貝塚优 Johns 六(一一)三三八～三四一

「古典あれこれ ビルロートと喉頭全摘術」廣瀬肇 Johns 六

(九) 二二四四～二二四六

「古典あれこれ Heerfordt 症候群」堀内正敏 Johns 六(五) 七三八～七四〇

25 種痘史

「北関東における種痘の普及と医師群 ―下野国の場合―」菊地卓『実学史研究』Ⅴ 一五五～一九一

26 獣医学史

「江戸時代後期から明治時代中期までの畜産書の歴史 特におラソダのシヨメール『厚生新編』を中心として」松尾信一『信州大学農学部紀要』二七(二) 一一五～一三二

「信州大学農学部所蔵特殊コレクション・欧米書籍について」松尾信一『信州大学農学部紀要』二七(二) 九一～一一四

「家畜ヤギの骨格の雌雄差に関する解剖学的研究」松尾信一、管澤勝巳、大島浩二『信州大学農学部紀要』二七(二) 一三三～一八九

27 書簡

「高富藩士伴野苑の慾齋書簡Ⅳ」遠藤正治『慾齋研究会だより』(四九) 六～七

「発見された中原市五郎のギージーへの手紙」長谷川弥、新藤恵久『日本歯科医史学会誌』一七(一) 二八～二九

28 書誌学

「池田文書の研究(三)」池田文書研究会『日本医史学雑誌』三六(二) 一六三～一六八

「池田文書の研究(四)」池田文書研究会『日本医史学雑誌』三六(三) 三〇五～三二〇

「小児全書」について」石田純郎『啓迪』(八) 一一～一五

「サンフランシスコ大学の日本古医書―大滝紀雄『日医新報』(三四四〇) 五九～六一

「六物新志」の『対訳』『義訳』『直訳』大友信一『洋学資料による日本文化史の研究』Ⅲ 一七～二七

「神仙秘法について(一)(抄)」上瀉口武、嶋村昭辰『日本歯科医史学会誌』一六(三) 一八六～一八七

「神仙秘法について(二)(抄)」上瀉口武、嶋村昭辰『日本歯科医史学会誌』一六(三) 一八八

「小石第二郎著『新潟県下温泉舎密場試験表』について」蒲原宏『医譚』(五九) 三五七～三五八七

「和刻本漢籍医書出版総合年表」小曾戸洋、関信之、栗原萬理子『日本医史学雑誌』三六(四) 四五九～四九四

「徒然草の中の医学」白崎昭一郎『北陸医史』一一(一) 五三～五八

「医心方」の伝写について(X)―関連書目―(抄) 杉立義一『日本医史学雑誌』三六(一) 三三～三四

「蘭方口伝(シーボルト験方録)」中村昭『日本医史学雑誌』三六(三) 二七一～二九四

「宇田川榛齋の未刊訳本『新訳帝田内外治療書、ブランカールト内科書および解剖図説』中山沃『洋学資料による日本文化史の研究』Ⅲ 二九～四六

『本草色葉抄』所引の医学文献(抄)「真柳誠『日本医史学雑誌』三六(一)三四～三六

「風流今様曾我について(その二)(抄)」本山佐太郎『日本歯科医史学会々誌』一六(三)一八五～一八六

「風流今様曾我について(その三)(抄)」本山佐太郎『日本歯科医史学会々誌』一七(一)五一

『江馬飯沼方書』について「安江政一『慈齋研究会だより』(五〇)四～七

「Humphy Davy 著「Researches, Chemical and Philosophical; chiefly concerning Nitrous Oxide」を手にして(抄)」山城三喜子、高橋誠治、住友雅人、古屋英毅『日本歯科医史学会々誌』一六(三)一七三～一七四

「福島尚純著『袖診外科総論』(抄)」山田秀紀、大場重信、村木春長、谷津三雄、今田喬士『日本歯科医史学会々誌』一七(一)二一～二二

29 小児科史

「小樽小児科部会の活動 昭和三五年より一〇年間の小児科医連盟の年間行事」飯塚晁『小樽医師会小児科部会創立四〇年記念誌』八二、八九

「小樽小児科部会の活動 昭和四〇年前後の小児科医連盟の動

向」飯塚晁『小樽医師会小児科部会創立四〇年記念誌』七八～八二

「西欧の育児風習『スワドリング(Swaddling)』と小児医学のかかわり」大野晏且『科学医学資料研究』(一九九)一～一〇

「小樽小児科部会の活動 昭和三〇年前後の部会活動」珠玖捨男『小樽医師会小児科部会創立四〇年記念誌』七七～七八

「小児科医連盟とその後」珠玖捨男、飯塚晁、今井浩『小樽医師会小児科部会創立四〇年記念誌』四一～五七

「官公立病院小児科の動向 小樽協会病院小児科の沿革」高木正光、珠玖捨男『小樽医師会小児科部会創立四〇年記念誌』六九～七一

「官公立病院小児科の動向 北生病院小児科」田宮恭子『小樽医師会小児科部会創立四〇年記念誌』七一～七二

「小樽小児科部会の活動 昭和五〇年前後」田宮恭子、太田秀穂『小樽医師会小児科部会創立四〇年記念誌』八九～九二

「官公立病院小児科の動向 国立療養所小樽病院における小児科のあゆみ」津川敏『小樽医師会小児科部会創立四〇年記念誌』七二～七六

「官公立病院小児科の動向 市立小樽病院」津田政則、飯塚晁、今井浩『小樽医師会小児科部会創立四〇年記念誌』五八～六九

「医師会小児科部会発足以前」津田政則、珠玖捨男『小樽医師会小児科部会創立四〇年記念誌』二四～四〇

「小児疾病論」——出生からの小児のとりあつかいにかたについて

の心得」深瀬泰且『科学医学資料研究』(一九〇)一～四

「子どもと医史学」(二八) 排尿 下「深瀬泰旦『教育医事新聞』(六六) 一五

「子どもと医史学」(一九) 小兒科学の誕生「深瀬泰旦『教育医事新聞』(六七) 一一

「子どもと医史学」(二〇) 小兒病院の歴史「深瀬泰旦『教育医事新聞』(六八) 一六

「子どもと医史学」(二二) 小兒病院の歴史 その二「深瀬泰旦『教育医事新聞』(六九) 一四

「子どもと医史学」(二二) 科学的人工栄養法の開発「深瀬泰旦『教育医事新聞』(七〇) 一〇

「子どもと医史学」(二三) 子供の物質代謝「深瀬泰旦『教育医事新聞』(七一) 一五

「子どもと医史学」(二四) 腸内細菌叢の研究「深瀬泰旦『教育医事新聞』(七三) 一六

「子どもと医史学」(二五) アレルギー「深瀬泰旦『教育医事新聞』(七四) 一六

「子どもと医史学」(二六) アレルギー その二「深瀬泰旦『教育医事新聞』(七五) 一一三

「子どもと医史学」(二七) アレルギー その三「深瀬泰旦『教育医事新聞』(七七) 一四

「国立岡山病院における小兒医療三七年間の歩み 特に新生児医療を中心として」山内逸郎、五十嵐郁子『小兒臨』四三(八) 一五九一～一五九八

30 神経学史

「人と時代 神経伝達物質の研究」(二) 伝達物質研究前史「佐野豊『ミクロスコピア』七(一) 三八～四五

「人と時代 神経伝達物質の研究」(三) 科学的伝達概念の誕生するまで「佐野豊『ミクロスコピア』七(二) 九〇～九五

「人と時代 神経伝達物質の研究」(四) 実証された化学伝達「佐野豊『ミクロスコピア』七(四) 二一四～二二〇

32 整形外科史

「整形外科を育てた人達」(第七八回) 松岡道治教授(一八七一～一九五三)「天児民和『臨整外』二五(一) 七〇～七三

「整形外科を育てた人達」(第七九回) Joseph Trueta(一八九七～一九七七)「天児民和『臨整外』二五(二) 一五四～一五七

「整形外科を育てた人達」(第八〇回) Leo Mayer(一八八四～一九七二)「天児民和『臨整外』二五(三) 二九八～三〇〇

「整形外科を育てた人達」(第八一回) 三木威勇治教授(一九〇四～一九六六)「天児民和『臨整外』二五(五) 六二四～六二六

「整形外科を育てた人達」(第八二回) Peter Camper(一七二二～一七八九)「天児民和『臨整外』二五(六) 七三八～七四〇

「整形外科を育てた人達」(第八三回) 田代義徳教授(一八六四～一九三八)「天児民和『臨整外』二五(七) 八六〇～八六二

「整形外科を育てた人達」(第八四回) Bell Charles(一七七四～

一八四二)「天児民和『臨整外』二五(八) 九六四〜九六六
 「整形外科を育てた人達(第八五回)片山良亮教授(一九〇一—
 九八二)「天児民和『臨整外』二五(九) 一〇八四〜一〇八六
 「整形外科を育てた人達(第八六回) Patrick Haglund(一八七
 〇—一九三七)「天児民和『臨整外』二五(一〇) 一七六〜一
 一七八

「整形外科を育てた人達(第八七回) Santiago Ramon y Cajal
 (一八五二—一九三四)「天児民和『臨整外』二五(一一) 一
 八〇〜一八二
 「整形外科を育てた人達(第八八回) Harold Buhals Boyd(一
 九〇四—一九八一)「天児民和『臨整外』二五(一二) 一三九
 二〜一三九四

33 精神医学史

「保健衛生調査会第一回報告」より(その三)『呉秀三先生記
 念精神科医療史資料通信』(一八) 一八〜二二
 「保健衛生調査会第一回報告」より(その四)『呉秀三先生記
 念精神科医療史資料通信』(一九) 二〇〜二三
 「保健衛生調査会第一回報告」より(その五)『呉秀三先生記
 念精神科医療史資料通信』(二〇) 二五〜三五
 「緒方洪庵訳『扶氏経験遺訓』より(神経病の部分)(その三)」
 「呉秀三先生記念精神科医療史資料通信」(一八) 一〜九
 「緒方洪庵訳『扶氏経験遺訓』より(精神病の部分)(その四)」
 「呉秀三先生記念精神科医療史資料通信」(一九) 一〜七

「緒方洪庵訳『扶氏経験遺訓』より(精神病の部分)(その五)」
 「呉秀三先生記念精神科医療史資料通信」(二〇) 八〜一三
 「呉秀三在職十年祝賀アルバム(門弟写真) 補遺(完結)」『呉秀
 三先生記念精神科医療史資料通信』(一八) 三八
 「佐々木政吉『髮截症三患者の報道』(その一)」『呉秀三先生記
 念精神科医療史資料通信』(二〇) 二二〜二四

「白髪勝世『開業医の反省録』より座敷牢で死亡した剖検例」
 「呉秀三先生記念精神科医療史資料通信」(二〇) 三六〜三七
 「精神衛生鑑定基準(案) 一九五一(その一)」『呉秀三先生記念
 精神科医療史資料通信』(一八) 二二〜二七

「精神衛生鑑定基準(案) 一九五一(完結)」『呉秀三先生記念精
 神科医療史資料通信』(一九) 二九〜三一
 「精神科医療史関連文献目録 一九八六」『呉秀三先生記念精神
 科医療史資料通信』(一八) 二九〜三二

「精神科医療史関連文献目録 一九八七」『呉秀三先生記念精神
 科医療史資料通信』(一九) 三三〜三五

「精神科病院労働争議資料(その一) 松沢病院関係新聞記事、根
 岸病院関係ビラ、保養院関係ビラ」『呉秀三先生記念精神科医
 療史資料通信』(一九) 二四〜二八

「狸憑毆打致死事件判決書ほか(その一)」『呉秀三先生記念精神
 科医療史資料通信』(一八) 一〇〜一七
 「狸憑毆打致死事件判決書ほか(完結)」『呉秀三先生記念精神科
 医療史資料通信』(一九) 二二〜一九

「中神琴溪『生生堂医譚』(二七九六年)より(その一)」『呉秀

三先生記念精神科医療史資料通信』(二〇) 一〜七

〔錦絵『東絵昼夜鏡』(玉藻前二九尾の狐)』『吳秀三先生記念精神科医療史資料通信』(一九) はさみ込み

〔髮截症関係記事』『吳秀三先生記念精神科医療史資料通信』(二〇) 一八〜二一

〔肥前療養所における開放制の経験―伊藤正雄先生にうかがう―』『吳秀三先生記念精神科医療史資料通信』(二一) 別冊

〔明治一九年東京府癲狂院病床日誌(その一)』『吳秀三先生記念精神科医療史資料通信』(一九) 八〜一

〔明治一九年東京府癲狂院病床日誌(完結)』『吳秀三先生記念精神科医療史資料通信』(二〇) 一四〜一七

〔日本精神医学風土記(第三部)(第七回) 奈良県 井川玄朗』『臨精医』一九(五) 六八六〜六九二

〔精神科看護史の諸問題(抄)』岡田靖雄『日本医史学雑誌』三六(一) 五八〜六〇

〔精神科患者の自殺事件』岡田靖雄『吳秀三先生記念精神科医療史資料通信』(二〇) 別冊

〔報道のなかの精神疾患』岡田靖雄『吳秀三先生記念精神科医療史資料通信』(二〇) 別冊

〔日本精神医学風土記(第三部)(第六回) 茨城県 倉持弘、大原重雄『臨精医』一九(一) 一一七〜一二六

〔日本精神医学風土記(第三部)(第八回) 埼玉県 中島三之丞『臨精医』一九(七) 一一五〜一二六

〔日本精神医学風土記(第三部)(第九回) 兵庫県 古橋武夫『臨

精医』一九(九) 一三〇七〜一三一五

〔主張 このまま、いつまでもつづかせるのか』吉岡真二『吳秀三先生記念精神科医療史資料通信』(二〇) 三八〜三九

〔主張 鎮魂、そして批判と怒りを!』吉岡真二『吳秀三先生記念精神科医療史資料通信』(二一) 三四〜三六

〔主張 鎮魂、なにをなすべきか』吉岡真二『吳秀三先生記念精神科医療史資料通信』(一九) 三七〜三八

35 西洋医学史

〔ヨーロッパ医療界における蘭学(一七〇〇―一八八〇)のモデルの位置付けについて』石田純郎、H・ポイケルス『医譚』(五九) 一九〜二六

〔トゥッケディデス『戦史』におけるギリシア医学の影響(抄)』今井正浩『日本医史学雑誌』三六(一) 七二〜七四

〔医学史ミニ博物館(四六) 日仏医学の新しい掛け橋 大村敏郎『医学のあゆみ』一五二(八) 五一〜六

〔西洋医学の伝来と受容』蔵方宏昌『近代日本・その科学と技術―原典への招待』紫藤貞昭他 一〇〜四一

37 生理学史

〔消化管運動の研究の歴史』中山沃『日本医史学雑誌』三六(一) 四〜八

38 地方史

- 「明治七年山県郡医師調査について(抄)」末田尚、進藤岱三『日本医学雑誌』三六(一)四九〇、五〇〇
- 「横浜軍陣病院」等に関する知見補遺」中西淳朗『保険医の臨床』(三〇六)一〇〇～一九
- 「横浜仏語伝習所」に関する知見補遺」中西淳朗『保険医の臨床』(三〇五)一〇〇～一八
- 「医史跡紀行(一六)岡山 津山洋学と箕作阮甫」西来武治『Medical News』(三二〇)一五～一八
- 「医史跡紀行(一七)福井 北陸の種痘の先覚者・笠原良策」西来武治『Medical News』(三二一)一五～一八
- 「医史跡紀行(一八)香川 『非常の人』平賀源内」西来武治『Medical News』(三二二)一五～一八
- 「医の資料館(一)熊本 受け継がれた学統・北里柴三郎記念館」西来武治『Medical News』(三二三)一四～一七
- 「医の資料館(二)長野 東洋の道徳、西洋の芸術・象山記念館」西来武治『Medical News』(三二四)一四～一七
- 「医の資料館(三)岩手 不撓不屈・真理の追求 高野長英記念館」西来武治『Medical News』(三二五)一四～一七
- 「西宮医学風土記(九)億川家のひとびと」堀内冷『西宮文化』(二四)一一～一四
- 「郷土医史 明治の鹿児島医学史(その三二)」森重孝『鹿児島市医報』二九(三)三九～四一
- 「郷土医史 明治の鹿児島医学史(その三三)」森重孝『鹿児島市医報』二九(三)三九～四一

市医報』二九(四)五五～五八

「郷土医史 明治の鹿児島医学史(その三三)」森重孝『鹿児島市医報』二九(五)四一～四二

「郷土医史 明治の鹿児島医学史(その三四)」森重孝『鹿児島市医報』二九(六)

市医報』二九(六)

「郷土医史 明治の鹿児島医学史(その三五)」森重孝『鹿児島市医報』二九(七)四九～五一

市医報』二九(七)四九～五一

「郷土医史 明治の鹿児島医学史(その三六)」森重孝『鹿児島市医報』二九(九)五五～五八

市医報』二九(九)五五～五八

「郷土医史 明治の鹿児島医学史(その三七)」森重孝『鹿児島市医報』二九(一〇)六三～六四

市医報』二九(一〇)六三～六四

「統計的にみた天保期名古屋の医師像」山内一信『日本医学雑誌』三六(四)三七九～四〇〇

「萩藩・藩医の俸禄」渡辺博『医道の日本』四九(五)一三五～一三六

一三六

39 治療史

- 「経腸栄養の歴史(一三)血清浸透圧など静脈栄養との比較」木村信良『輸液栄養ジャーナル』二二(一)一七～一九
- 「脂肪静注の試み(四)本邦初の市販製剤」木村信良『輸液栄養ジャーナル』二二(七)九一四～九一六
- 「脂肪静注の試み(五)脂肪乳剤の試作」木村信良『輸液栄養ジャーナル』二二(八)一〇三七～一〇三九
- 「脂肪静注の試み(六)実験の繰返し」木村信良『輸液栄養ジャーナル』二二(八)一〇三七～一〇三九

ナル』二二(九)一四一〜一四五

「クモを用いる日本の民間療法」浜田善利、吉倉真『日本医史学雑誌』三六(一)二九〜三〇

40 伝記

〔統〕赤尾醉仙氏について(抄)長谷川俊夫『日本歯科医史学会々誌』一七(一)五〇

「聖女アガサー乳房の病気の守護聖人」酒井シツ Mamma (七)裏表紙

「エディンバラ国立救貧院病院とアグネス・ベッチ」平尾真智子『日本医史学雑誌』三六(一)二二〜二二七

「アヴィセンナ『医学の歌』志田信男(解説、訳注)『伝承と医学』(四)四〜一四

〔歴史閑話〕『医学中央雑誌』を創刊した尼子四郎」深瀬泰且 MEDIC 二五(一一)表紙

「江戸時代の儒学者 雨森芳洲と雨森の里」雨森正高 JMC (三八)一四〜一五

「荒木千里」半田肇 Clin Neurosci 八(五)五六八

「佐渡家の阿波加脩造(じょうじょう) 寺畑喜朔『北陸医史』一一(一)二〜二四

「飯沼慾齋門下 写真術の系譜」宮川俊夫『慾齋研究会だより』(四九)一〜六

〔歴史閑話 東京大学医学部初代総理池田謙齋』深瀬泰且 MEDIC 二五(四)表紙

〔歴史閑話 人工刺激によってガンの発生を証明した市川厚一』深瀬泰且 MEDIC 二五(九)表紙

「市川厚一先生生誕百年—兎耳人口発癌の跡をたずねて」久葉昇『日本獣医学雑誌』(二六)一〜四七

「開成所教授・市川齋宮のドイツ語—高橋輝和『洋学資料による日本文化史の研究』Ⅲ(三)四七〜五八

〔歴史閑話 疫痢や自家中毒症などの研究で有名な伊東祐彦』深瀬泰且 MEDIC 二五(一三)表紙

「Rudolf Virchow」横井晋 Clin Neurosci 八(七)八〇六

「名医列伝 上田秋成—怪奇文学の第一人者。本居宣長と同じ文人医師」蔵方宏昌『ばんぶう』(一一二)一四二〜一四三

「江坂秀三郎—初期の京都府療病院と滋賀県高島病院に尽粋した明治の医人」藤田俊夫『医譚』(五九)三五五〜三五六〇

「名医列伝 エルドリッジ—北海道の医療と医学教育に尽力した外科医」蔵方宏昌『ばんぶう』(一一〇)一七八〜一七九

「名医列伝 大槻玄沢—洋学の花を咲かせた蘭方医—」蔵方宏昌『ばんぶう』(一〇四)一四四〜一四五

「九州医家列伝(一) 緒方惟華」中西啓『CRC ジャーナル』(二二八)一一〜一三

「名医列伝 緒方春朔—日本で最初に人痘種痘に成功」蔵方宏昌『ばんぶう』(一〇九)一七〇〜一七一

「緒方富雄先生とエスペラント」戸田清『日本医史学雑誌』三六(一一)一四七〜一五一

(一) 一五二～一五六

「名医列伝 荻野吟子—日本の女医第一号—」蔵方宏昌『ぼんぶう』(一〇五) 一六〇～一六一

「賀古鶴所」額田煜『日医新報』(三四四一) 五九～六一

「Casper Schambergers "Lebens-Lauf"」Michel, Wolfgang

『言語文化論究』(一) 四一～五一

「出島蘭館医カスバル・シヤムベルゲルの生涯について(抄)」

ヴォルフガング・ミヒェル『日本医史学雑誌』三六(一) 二〇

一～二一〇

「生誕百年を迎えた生理学者 加藤元一(抄)」古川明『日本医史学雑誌』三六(一) 五五～五七

「虎列刺合戦絵入りくどき—金沢近八郎衛門の戯作出版活動

について」正橋剛二、松田健史『北陸医史』一一(一) 四〇～

四八

「名医列伝 カハール—神経解剖学を樹立—」蔵方宏昌『ぼんぶう』(一〇六) 一六六～一六七

「日本の脳研究者たち 川原汎(一八五八—一九一八) 高橋昭

Brain Med II (11) 一〇〇～一一三

「関東船橋氏について(抄)」奥富敬之『日本医史学雑誌』三六

(一) 三九～四一

「Walker Bradford Cannon (一八七—一九四五)」山田律爾

Clin Neurosci 八(六) 六八四

「医人伝 呉建」江川義雄『広島医』四三(一) 一四三～一四七

「呉建について(抄)」江川義雄『日本医史学雑誌』三六(一)

九四～九五

「名医列伝 黒川良安—北陸の洋学を確立—」蔵方宏昌『ぼんぶう』(一〇八) 一七〇～一七一

「適塾門下生・黒田行次郎」水原完『日医新報』(三四四九) 五

六～六一

「桑田立斎と蝦夷種痘図 その二」加藤四郎『けんさ』二〇(一)

二一～二四

「Engelbert Kempler の日本医学に関する新しい資料(抄)」ミ

ヒェル・ヴォルフガング『日本医史学雑誌』三六(一) 七五

「小林義直とその訳書(抄)」渋谷敏、谷津三雄『日本医史学雜

誌』三六(一) 九二～九三

「医学史ミニ博物館(四八) コルヴィザールと音の診断」大村敏

郎『医学のあゆみ』一五三(四) 一九一

「Alfred Gordon (一八七四—一九五二)」高柳哲也 Clin Neu-

rosi 八(一) 一一二

「歴史閑話 歌人として名を成した齋藤茂吉」深瀬泰旦 MEDIC

二五(六) 表紙

「佐伯理一郎と京都—『日誌抜粹』を中心に—」長門谷洋治『啓

迪』(八) 二五～二九

「メリオイドーシスの日本人初例を戦地で診察した軍医崎原英夫

先生 細菌学の知識と技術を戦中・戦後の診療に生かし続けた

先達に聞く」荒川迪生 Prog Med 一〇(九) 二四八～二四

九四

「佐久間象山の電気治療機」沢田平、東徹、出水力『実学史研

究』(Ⅴ)一〇七～一二四

「歴史閑話 栄養学の集大成に一生を捧げた佐伯矩」深瀬泰且
MEDIC 二五(五)表紙

「歴史閑話 杏雲堂の創立者佐々木東洋」深瀬泰且 MEDIC 二
五(一)表紙

「佐藤達次郎大先生と順天堂医事研究会」清水文彦『順天堂医
学』三六(二)二五八～二五九

「シーボルト雑記帳(三六) 浪人たちの襲撃と江戸の状況」吉岡
達夫『東洋薬事報』三一(四)二四～二六

「シーボルト雑記帳(三七) 幕府のために進言」吉岡達夫『東洋
薬事報』三一(五)二四～二六

「シーボルト雑記帳(三八) ジャヴァへの帰国命令をうける」吉
岡達夫『東洋薬事報』三一(六)二四～二六

「シーボルト雑記帳(三九) 江戸駐在公使を願望 息子との最後
の別れ」吉岡達夫『東洋薬事報』三一(七)二四～二六

「シーボルト雑記帳(四〇) ニッポンの国際情勢を心配する」吉
岡達夫『東洋薬事報』三一(八)二四～二六

「シーボルト雑記帳(四一) 新進作家ドーデーの手助け」吉岡達
夫『東洋薬事報』三一(九)二八～三〇

「シーボルト雑記帳(四二) その死の前夜」吉岡達夫『東洋薬事
報』三一(一〇)二四～二六

「シーボルト雑記帳(四三) コレクションをバイエルン国が買上
げる」吉岡達夫『東洋薬事報』三一(一一)二四～二六

「シーボルト雑記帳(四四) 補遺(一) イギリス公使館の若者

(Ⅰ) 吉岡達夫『東洋薬事報』三一(一二)二四～二六

「シーボルト雑記帳(四五) 補遺(二) イギリス公使館の若者
(Ⅱ) 生表事件とイギリスと薩摩の戦争」吉岡達夫『東洋薬事
報』三一(一)二四～二六

「シーボルト雑記帳(四六) 補遺(三) イギリス公使館の若者
(Ⅲ) 遣欧使節の通訳をつとめる」吉岡達夫『東洋薬事報』三
二(二)二四～二六

「シーボルト雑記帳(四七) 補遺(四) イギリス公使館の若者
(Ⅳ) 男爵を拝命・万国博で尽力」吉岡達夫『東洋薬事報』三
二(三)二四～二六

「飯沼良吉の報じたシーボルト事件」宗田一『慈齋研究会だより』
(五〇)二～四

「シデナムとその周辺」宗田一『科学医学資料研究』(一九五)
五～一三

「柴田信教授の著書について(抄)」山田秀紀他『日本歯科医史
学会々誌』一六(三)一七二～一七三

「島村鼎甫とその訳書『生理発蒙』『創夷新説』など江戸末期か
ら明治初期の洋書翻訳」津下健哉『広島医』四三(二)三三八
～三四二

「医学史からみた鍼医・徐福」宇田明男『医道の日本』四九(五)
一〇九～一一九

「須藤五百三―魯迅最後の主治医(抄)」泉彪之助『日本医史学
雑誌』三六(一)一〇一～一〇二

「お雇い医師スロイスの帰路―金沢から神戸まで」正橋剛二、篠

- 原治道、松田健史『北陸医史』一一(一)四九～五二
- 〔高木兼寛の診療風景〕松田誠『東京慈恵会医科大学雑誌』一〇五(四)五八三～五八五
- 〔名医列伝 高野長英―悲劇の蘭学者―〕蔵方宏昌『ばんぶう』(二〇七)一四六～一四七
- 〔歴史閑話 施療事業の先駆者高松凌雲〕深瀬泰旦 MEDIC 二五(一一)表紙
- 〔澤庵禅師の神農観について〕岩治勇一『北陸医史』一一(一)三八～三九
- 〔岡山県医学校旧蔵 田口和美『解剖攬要』について(抄)〕中村昭『日本医史学雑誌』三六(一)六五～六七
- 〔医人伝 田宮知恥夫〕江川義雄『広島医』四三(七)一二六八～一二七〇
- 〔筒井八百珠(一八六三―一九二二)―その生涯と業績〕長門谷洋治『日本医史学雑誌』三六(一)七〇～七二
- 〔筒井八百珠の『臨床医典』〕長門谷洋治『日本医事新報』(三四二九)一三五～一三六
- 〔ダン医師の写真〕泉彪之助『中国図書 一九九〇』(三)一三～一四
- 〔トーマス・B・ダン研究補遺〕泉彪之助『福島県立短期大学研究紀要』(一五)八九～一〇〇
- 〔名医列伝中川淳庵―「解体新書」翻訳の静かなる立役者―〕蔵方宏昌『ばんぶう』(一一三)一六六～一六七
- 〔中原市五郎と児童正食会(抄)〕新藤恵久、鈴木雄司『日本歯科医史学会々誌』一七(一)二九
- 〔実学と協同体―華岡門駿州中村順助を事例として―〕末中哲夫『実学史研究』(Ⅴ)一九三～二二二
- 〔史実・長井兵助(抄)―遠藤吉雄、高槻正男、佐藤忠四郎『日本歯科医史学会々誌』一六(三)一八二～一八三
- 〔医心伝診(一)〕植林鎮山の系譜』みどり編集部『みどり』五(四)一〇～一一
- 〔難波抱節旧蔵『温知堂文庫』について(抄)〕三浦豊彦『日本医史学雑誌』三六(一)六三～六五
- 〔長崎梅毒病院医師G・B・ニュートンの死(抄)〕深瀬泰旦『日本医史学雑誌』三六(一)八八～九〇
- 〔横浜・長崎梅毒病院医師G・B・ニュートンへの誹謗〕深瀬泰旦『神奈川県医師会報』(四六六)八九～九〇
- 〔歴史閑話 ノーベル賞候補にもあがった野口英世〕深瀬泰旦 MEDIC 二五(八)表紙
- 〔スピロヘータ分類学上の野口英世の業績の医史学的分析(抄)〕福本裕『日本歯科医史学会々誌』一六(三)二〇三～二〇四
- 〔湖柳生(野口英世)と歯科レントゲン(抄)〕谷津三雄、渋谷敏『日本医史学雑誌』三六(一)九六～九八
- 〔歴史閑話 日本赤十字社病院の初代院長橋本綱常〕深瀬泰旦 MEDIC 二五(七)表紙
- 〔歴史閑話 済生学舎を起し医学生生の養成に務めた長谷川泰〕深瀬泰旦 MEDIC 二五(一)表紙
- 〔考古学者〕馬場脩D・D・S(抄)〕蓮見壽伯『日本歯科医史

学会々誌』一六(三)一九八〜一九九

「パレ四〇〇年祭を迎えて蘭方医学の原点を探る 近代外科の父

パレの足跡」森岡恭彦他『医界新聞』(一八七七)二〜五

「医学史ミニ博物館(五〇)アンブローズ・パレの四〇〇年行

事」大村敏郎『医学のあゆみ』一五三(一二)七〇〇

「中期のアンブローズ・パレ(抄)」大村敏郎『日本医史学雑

誌』三六(一)八〇〜八二

「アンブローズ・パレの歯科口腔病医学(抄)」高山直秀『日本

歯科医史学会々誌』一七(一)四六〜四七

「広瀬旭荘と掛川」舟木茂夫『いわちどり』(一八)四六〜五八

「医心伝診(一一)広瀬元恭の系譜」みどり編集部『みどり』五

(三)二〇〜二二

「クレメンス・フォン・ピルケー」大島智夫『科学医学資料研

究』(一九六)一〜七

「フーランドの『長生術』について(抄)」吉原瑛『日本医史

学雑誌』三六(一)七八〜七九

「藤岡慶次郎(慶治郎)」江川義雄『広島医学』四三(六)一一

三一〜一三二

「プレックと『小児全書』」石田純郎『科学医学資料研究』(一八

七)六〜一

「Henry Head(一八六一〜一九四〇)」朝倉哲彦 Clin Neurosci

八(四)四六〇

「ヴェサリウスのファブリカについて(抄)」酒井恒『日本医史

学雑誌』三六(一)一五〜一六

「明治初期に來沢した外国人教師の一人ドクトル・ホイットニー

の消息について」加藤豊明『北陸医史』一一(一)六三〜七三

「名医列伝 堀内素堂—東北に西洋医学を興隆した—」蔵方宏昌

『ばんぶう』(一〇三)一九〇〜一九一

「本間玄調元且試筆の詩意について(抄)」山中太木『日本医史

学雑誌』三六(一)四四

「医学史ミニ博物館(五四)日蘭交流の恩人—ポンペ・ファン・

メールデルフォールト」大村敏郎『医学のあゆみ』一五五(四)

二四九

「ポンペ・ファン・メールデルフォールト(一)」大滝紀雄『科

学医学資料研究』(一九九)一一〜二二

「前田慶寧の病状記録について(抄)」寺畑喜朔『日本医史学雑

誌』三六(一)四一〜四三

「先達医家の肖像(三〇)マジャンディー」酒井シヅ Medical

Digest 三九(三)裏表紙

「名医列伝 曲直瀬玄朔—漢方の日本化と李朱医学の普及に貢

献—蔵方宏昌『ばんぶう』(一一四)一三八〜一三九

「曲直瀬道三の『遐齡小兒方』について(抄)」広田暁子『日本

医史学雑誌』三六(一)三七〜三八

「筑作省吾」半谷二郎『日医新報』(三四三九)六六〜六八

「江戸時代に舶來したミモンチングの植物学書」矢部一郎『実学

史研究』(Ⅴ)三〜一九

「人と時代 犬の脾を全摘したミンコウスキー」岡田奏二『ミク

ロスコピア』一七(三)一七〇〜一七三

「医人伝 望月淳一」江川義雄『広島医』四三(八) 一四八二～

一四八三

「医学生森林太郎(鷗外)の外科学教科書への書込みについて」

津山直一『整形外科』四一(一) 一三九～一四〇

「医師山上兼輔(抄)」田中助一『日本医史学雑誌』三六(一)

一三～一五

「山村棟次郎小伝(第一報)(抄)」長谷川正康『日本歯科医史学
会々誌』一七(一) 四九～五〇

「歴史閑話 結核やガンの免疫化学の先駆者山村雄一」深瀬泰且
MEDIC 二五(一〇) 表紙

「(古良) 半咲齋か半笑齋か」宗田一『医譚』(五八) 三五一六～
三五一八

「医学史ミニ博物館(四九) ラレ考案の救急車」大村敏郎『医
学のあゆみ』一五三(八) 四四二

「Louis-Antoine Ranvier (一八三五—一九二二)」金光晟 Clin
Neurosci 八(三) 三四六

「名医列伝 リンネー二名法の学名判定と植物分類法を確立」

藏方宏昌『ばんぶう』(一一) 一六二～一六三

「Friedrich Daniel von Recklinghausen」乃木田俊辰 Clin
Neurosci 八(一) 一三六

「Dr. Albrecht von Roretz に関するオーストリア国内の文献に
ついで」小形利彦、Rabl, Erich, Kurz, Anton『日本大学山形
高等学校・中学校「研究紀要」(一四) 一一三～一二三

41 伝 記(双)

「石黒忠恵の家塾跡と名倉家(抄)」我部正彦『日本医史学雑誌』

三六(一) 四七～四八

「佐賀県立病院(好生館)の御雇外国人医学教師(抄)」高安伸
子『日本医史学雑誌』三六(一) 八五～八七

「菅茶山と門人の医師たち(寛延元年・一七四八—文政一〇年—
八二二)」江川義雄『広島医』四三(一〇) 一八三四～一八三七

「蘭医学の順天堂 医学振興に尽くした佐藤泰然・舜海(佐倉)」

須田茂『人づくり風土記』農山漁村文化協会 二一三～二二〇

「近代朝鮮における女子医学生について(抄)」三崎裕子『日本
医史学雑誌』三六(一) 一〇三～一〇四

「筒井八百珠と下平用彩」長門谷洋治『日本医事新報』(三四五
六) 一二〇～一二一

「史料との出会い—歩兵屯所医師取締 手塚良仙とその一族—」

深瀬泰且『日本医史学雑誌』三六(四) 四一三～四三三

「いわゆる『ターヘルアナムトミア』の蘭訳者ディクランとその学
統(抄)」石田純郎、H・ポイケルス『日本医史学雑誌』三六
(一) 七六～七七

「中原市五郎とギージー(抄)」新藤恵久、長谷川弥『日本歯科
医史学会々誌』一六(三) 一九五

「中原實先生とフォシャル(抄)」谷津三雄『日本歯科医史学
会々誌』一六(三) 一九一～一九二

「一八六〇年代にオランダのライデンに滞在した日本人学生た
ち」H・ポイケルス、石田純郎『津山洋学資料館講演会記録』

(一四) 一〇一三

「ハヤステルとコールホルン」石田純郎『洋学資料による日本文化史の研究Ⅲ』五九〇七七

「J. Hunter の業績とシュレーゲルの条紋」本間邦則『日本歯科医学学会々誌』一六(二) 一二三～一二八

「医学史ミニ博物館(四五) ビンシャーとデソーの包帯法」大村敏郎『医学のあゆみ』一五二(四) 二四六

「堀杏庵とその一族」江川義雄『広島医』四三(九) 一六六二～一六六五

「ある一族と『西欧』望月洋子『本』一九九〇―三) 一六～一九

「山口玄洞とその一族先人の業績」江川義雄『医譚』(五九) 一〇一～一〇八

「山脇家と今小路(曲直瀬)家」宗田一『啓迪』(八) 一～四

「吉田長淑の養子関係と宇田川玄真」平野満『日本医学史雑誌』三六(二) 一三二～一三八

「和氣・半井家(本流文流関連) 略系図」杉立義一『啓迪』(八) 五～一〇

43 東洋医学史

「浅田宗伯翁略伝」『漢方の臨床』三七(九) 一〇六三～一〇六七

「浅田宗伯略年譜」『漢方の臨床』三七(九) 一〇七〇～一〇七九

「和法」概説」伊沢凡人『昭和薬大紀 人文・社会・自然』(一四) 二〇三～二二五

「三黄瀉心湯をめぐる」今泉清『漢方の臨床』三七(一一) 一三二四～一三三三

「脈法私言」の宗伯先生を讀えて」小川新『漢方の臨床』三七(九) 一〇〇一～一〇〇七

「漢方史景(三四) カビ症候群(一)」藏方宏昌『漢方診療』(四五) 四四～四五

「漢方史景(三五) カビ症候群(二)」藏方宏昌『漢方診療』(四六) 三四～三五

「漢方史景(三六) カビ症候群(三)」藏方宏昌『漢方診療』(四七) 四六～四七

「漢方史景(三七) カビ症候群(四)」藏方宏昌『漢方診療』(四八) 二六～二七

「漢方史景(三八) カビ症候群(五)」藏方宏昌『漢方診療』(四九) 七六～七七

「日本古方医学派の『傷寒論』研究に於ける『実学』思想とその意義(抄訳)」顧旭平、中村昭訳『漢方の臨床』三七(七) 七五～七五八

「浅田宗伯の漢詩墨跡」小曾戸洋『漢方の臨床』三七(九) 九四四～九五九

「類経本『素問』『靈枢』の付訓編刊者について(抄)」小曾戸洋『日本医学雑誌』三六(二) 二六～二七

「漢方医学の歴史(上)——中国編」小曾戸洋『漢方と鍼』(五九) 八～一〇

「漢方医学の歴史(下)——日本編」小曾戸洋『漢方と鍼』(六〇)

八〇九

「目で見る漢方史料館(二七) 多紀元簡の山水画」小曾戸洋『漢方の臨床』三四(一)二〇四

「目で見る漢方史料館(二八) 北山友松子の遺墨」小曾戸洋『漢方の臨床』三七(二)一三四〜一三六

「目で見る漢方史料館(二九) 日本最古の『傷寒論』の版本—古活字版」小曾戸洋『漢方の臨床』三七(三)二三八〜二四〇

「目で見る漢方史料館(三一) 曲直瀬道直筆『啓迪集』—三原市立図書館蔵本」小曾戸洋『漢方の臨床』三七(五)四七六〜四七八

「目で見る漢方史料館(三二) 朝鮮古活字版『黄帝内経素問』ほか—三原市立図書館蔵本」小曾戸洋『漢方の臨床』三七(六)五九六〜五九八

「目で見る漢方史料館(三三) 日本最初の活字版医書」小曾戸洋『漢方の臨床』三七(七)七一六〜七一八

「目で見る漢方史料館(三四) 国宝半井家本『医心方』小曾戸洋『漢方の臨床』三七(八)八二八〜八三二

「目で見る漢方史料館(三五) 江戸麻布菜園の本草画—麻布明称寺の格天井」小曾戸洋『漢方の臨床』三七(一〇)一一三二〜一一三五

「浅田宗伯生誕一七五年祭記念講演概要 浅田流漢方について(抄)」坂口弘『漢方の臨床』三七(九)一〇二九〜一〇三三

「八砥礪鋒利して、小大の形を制する√石(上)—古典に見る砭鍼の臨床的意義について—」坂本秀治『漢方の臨床』三七(八)

九〇二〜九〇六

「八砥礪鋒利して、小大の形を制する√石(下)—古典に見る砭鍼の臨床的意義について—」坂本秀治『漢方の臨床』三七(一〇)一一九四〜一一九九

「康治本傷寒論」の数字について」桜井謙介『漢方の臨床』三七(七)七八二〜七八三

「郷薬集成方」巻第五 乳石発動について」杉山広重『漢方の臨床』三七(一二)一四三五〜一四四三

「国宝宋版『史記』の扁鵲倉公列伝における幻雲注の引用医書について(抄)」関信之、小曾戸洋、真柳誠『日本医史学雑誌』三六(一)二三〜二五

「中国古典における脾病・小腸病・大腸病の概念について(抄)」高島文一『日本医史学雑誌』三六(二)二二〜二三

「北陸における浅田宗伯の門流—佐々木秀三郎の事跡—」多留淳文『漢方の臨床』三七(九)一〇一〇〜一〇二二

「幻に終わった国際連盟の漢方薬研究(第一報)」津谷喜一郎『日本医史学雑誌』三六(一)一〇四〜一〇六

「浅田宗伯の精気神論—『澡泉余録』より—」中村昭『漢方の臨床』三七(九)一〇〇八〜一〇〇九

『生生堂雑話』(上)「西岡一夫『漢方の臨床』三七(一一)一二六〇〜一二七二

『生生堂雑話』(下)「西岡一夫『漢方の臨床』三七(一二)一四一一〜一四二二

「浅田宗伯生誕一七五年祭 展示掛軸 栗園翁直筆漢詩の解説」

長谷川弥人『漢方の臨床』三七(九) 一〇三八〜一〇五四

「浅田宗伯生誕一七五年祭記念講演要旨 栗園浅田宗伯先生の門弟教育について(抄)」長谷川弥人『漢方の臨床』三七(九) 一〇二三〜一〇二八

「栗園浅田宗伯先生の医学」長谷川弥人『漢方の臨床』三七(九) 九八三〜九九四

「浅田宗伯の著述とその所在」真柳誠『漢方の臨床』三七(九) 一〇五五〜一〇六二

「目で見える漢方史料館(三〇)」現存する日本第二の医書印刷の版本「真柳誠、小曾戸洋『漢方の臨床』三七(四) 三六〇〜三六二

「浅田宗伯翁の「生年月日」と「享年」について」矢数道明『漢方の臨床』三七(九) 一〇六八〜一〇六九

「浅田宗伯生誕一七五年祭記念講演要旨 奥田多門と浅田宗伯その他(抄)」矢数道明『漢方の臨床』三七(九) 一〇三四〜一〇三七

「温知荘雜筆 深川農堂氏の発刊した『尚古医報』―号外―」矢数道明『漢方の臨床』三七(七) 七八〇〜七八一

「特別座談会 浅田宗伯を語る」矢数道明、長谷川弥人、藤井美樹、坂口弘『漢方の臨床』三七(九) 九六五〜九八二

「『勿誤薬室方函』にみる浅田宗伯の考え方」安井広迪、楊育周『漢方の臨床』三七(九) 九九五〜一〇〇〇

「唐代史における皇帝と医学―太宗の場合―(抄)」山本徳子『日本医史学雑誌』三六(一) 一六〜一七

「吉益東洞自らが書いた貴重な臨床録・二例」横田観風『漢方の臨床』三七(一一) 一三〇六〜一三一

「中国医学と道教(X血潮説)(抄)」吉元昭治『日本医史学雑誌』三六(一) 一八〜二〇

44 内科史

「新心をめぐる医学の歴史 リュウマチ熱(二)」深瀬泰旦『ハーティング』三(一) 二九〜三四

「新心をめぐる医学の歴史 精神の座は脳か心臓か」深瀬泰旦『ハーティング』三(二) 一一八〜一三二

「新心をめぐる医学の歴史 先天性心疾患」深瀬泰旦『ハーティング』三(三) 二一〜二一五

「新心をめぐる医学の歴史 冠狀動脈とその病変(一)」深瀬泰旦『ハーティング』三(四) 三一一〜三二六

「新心をめぐる医学の歴史 冠狀動脈とその病変(二)」深瀬泰旦『ハーティング』三(五) 四二六〜四二二

「新心をめぐる医学の歴史 狭心症」深瀬泰旦『ハーティング』三(六) 五一〜五一六

「新心をめぐる医学の歴史 血圧測定」深瀬泰旦『ハーティング』三(七) 六一七〜六二二

「新心をめぐる医学の歴史 心電図」深瀬泰旦『ハーティング』三(八) 九一二〜九一六

「新心をめぐる医学の歴史 心臓の調律異常」深瀬泰旦『ハーティング』三(九) 一〇〇二〜一〇〇七

46 病院史

- 「新心をめぐる医学の歴史 心臓外科」深瀬泰且『ハートナーシング』三(一〇)一〇八九〜一〇九四
- 「新心をめぐる医学の歴史 ジギタリス」深瀬泰且『ハートナーシング』三(一一)一一八七〜一一九二
- 「新心をめぐる医学の歴史 ウイリアム・ハーヴェイと心をめぐる医学の発展につくした人々(二)」深瀬泰且『ハートナーシング』三(一二)一二七八〜一二八五
- 「中国古代病院の発展概況」張世政、張慶新『日病院会誌』三七(一一)一四三〜一四八
- 「加賀藩笠舞村撫育院と財団法人小野慈善院について」加藤豊明『北陸医史』一一(一一)二一九〜三七
- 「明治一〇年代前半の療病院生徒・看病夫の高蛋白質食―シヨイベの報告から」鯖田豊之『啓迪』(八)一六〜一八
- 「医界風土記(四一四) 大阪市立市民病院」長門谷洋治『日医ニュース』一九九〇・一・五
- 「京都府療病院設立 その経済的基盤と勸諭方 伊藤貫宗(鹿苑寺)ならびに佐々間雲巖(慈照寺の事跡)」藤田俊夫『啓迪』(八)一九〜二四
- 「上田市医師会付属医学史料館報(二二〇) 柳沢病院の記録(二九)」柳沢文秋『上田市医師会報』二〇(一一)九
- 「上田市医師会付属医学史料館報(二二一) 柳沢病院の記録(三〇)」柳沢文秋『上田市医師会報』二〇(一二)一三

48 病理学史

- 「上田市医師会付属医学史料館報(二二二) 柳沢病院の記録(三一)」柳沢文秋『上田市医師会報』二〇(三)六
- 「上田市医師会付属医学史料館報(二二三) 柳沢病院の記録(三二)」柳沢文秋『上田市医師会報』二〇(四)七

50 仏教医学史

- 「日本における二〇世紀後半の臨床検査について」寺畑喜朔『北陸医史』一一(一)五〜一一
- 「仏教と病氣・医療とのかかわり―とくにインド仏教について―」杉田暉道『日本医学史雑誌』三六(四)三六五〜三七八

53 本草学・博物学史

- 「『草木図説』の扉について」遠藤正治『慈齋研究会たより』(四八)一〜七
- 「本草備要を読む(一) 薬物学の歴史」田村哲彦『東医学研究』(五六)三五〜三九
- 「本草備要を読む(二) 薬物学の歴史(二)」田村哲彦『東医学研究』(五八)三七〜四〇
- 「飯沼慾齋の標本『サビナ』」水野瑞夫、遠藤正治『慈齋研究会たより』(五一)二〜五
- 「飯沼慾齋の『未詳一種 サビナ花戸称』の標本について」水野瑞夫、田中俊弘、酒井英二、邴研、遠藤正治、邑田仁『薬史学』

雑誌』二五(二) 一一一～一二七

54 麻醉学史

- 「麻醉学書誌学的研究(第五報)―頓宮寛編「伝達麻醉法」―(抄)」「石橋肇、土屋裕子、池田かのり、谷津三雄『日本歯科医学学会誌』一七(二) 四七～四八
- 「Wells 笑気麻醉の虚実―そのとき麻酔をかけたのは誰か―(抄)」「中原泉『日本歯科医学学会誌』一七(二) 四八～四九
- 「吸入麻酔の今昔(会)」「山村秀夫『臨床』一四(七) 一〇五八～一〇五九

56 薬学史

- 「About History of Pharmacy in Holland: An International Story」 Bosman-Jelgersma, Henriëtte A. 『薬史学雑誌』二五(二) 八四～八八
- 「史伝 伊吹艾と江戸文化」天野宏、斉藤明美、杉原正泰『薬史学雑誌』二五(二) 一四五～一五〇
- 「史伝 外郎透頂香と室町、江戸文化」天野宏、斉藤明美、杉原正泰『薬史学雑誌』二五(二) 一五一～一五八
- 「医学史ミニ博物館(五一) キーネの抽出」大村敏郎『医学のあゆみ』一五四(四) 二五三
- 「Insulin をよびその製剤に関する薬局方の史的考察(その一)」 Biological assay の変遷」末廣雅也『薬史学雑誌』二五(二) 一三五～一四四

「講座」薬の歴史のとりえ方(八) ヨーロッパ医歯学の伝来」宗田一『薬史学会通信』(二二) 三～四

「『窠篤児(ワートル) 薬性論』の異版(抄)」宗田一『日本医史学雑誌』三六(一) 八二～八三

「ヘルスケアの視点による大衆薬評価に関する研究(V) 薬理学的特異性と生理学的反応性に対する統合的演繹法」高橋晟『薬史学雑誌』二五(二) 一〇二～一〇六

「ヘルスケアの視点による大衆薬評価に関する研究(V) ヒポクラテス医学の今日的意義―ヒト機能の調節的統合性と環境に対する生態学的適応―」高橋晟『薬史学雑誌』二五(二) 一〇七～一一一

「ヘルスケアの視点による大衆薬評価に関する研究(V) 薬物の薬理的活性と生体反応性による演繹的評価法」高橋晟『薬史学雑誌』二五(二) 一一二～一二〇

「わが国の薬学における衛生学の発展(一) 明治時代」高畠英伍『薬史学雑誌』二五(二) 七五～八三

「史料 岡山県におけるけし栽培の歴史」土岐隆信、奥田拓男『薬史学雑誌』二五(二) 七〇～七四

「帝国大学医学部薬学科の発展(抄)」中室嘉祐『日本医史学雑誌』三六(一) 六〇～六二

「薬の携帯とその容器の史的研究(二) 印籠の起源」服部昭『薬史学雑誌』二五(二) 九八～一〇一

「史伝 熊本の矢部の薬園遺跡」浜田善利『薬史学雑誌』二五(二) 一五九～一六四

「生薬蝸牛の研究(第二報) 縁糸螺の基源動物について」浜田善利、難波恒雄『薬史学雑誌』二五(一)一四〇二〇

「クモ類の民俗薬物学研究(第一報) 中国の薬用クモ類」浜田善利、吉倉眞『薬史学雑誌』二五(一)二二一〇三三二

「明治期を中心とした中国産薬用生薬の輸入についての考案(五) とくに本邦明治前期から後期における中国からの大黃の輸出に關わる変遷について」播磨章一、田中康雄『薬史学雑誌』二五(二)八九〇九七

「ヨウ素剤の歴史」本間邦則『日本歯科医史学会々誌』一六(四)二一九〇二二七

「ケシの渡来と津軽一粒金丹(抄)」松木明知『日本医史学雑誌』三六(一)二八〇二九

「日本薬局方に見られたフェノール製剤の変遷」松本仁人、山田光男『薬史学雑誌』二五(一)三三三〇四〇

「大衆薬の新聞紙上広告に關する一考察——健康・病氣・くすりイメージを読み解く試み」松山圭子『社会薬学』九(一)五四〇六二

「供御薬儀の成立」丸山裕美子『お茶の水女子大学人文科学紀要』(四三)四九〇六五

「日本薬局方に見られた向精神・神経薬の変遷(その一) JP I ~ JP V における臭化カリウムの規格・試験法の変遷ならびに米
国・英国薬局法との対比について」柳沢清久『薬史学雑誌』二五(一)四一〇五五

「日本薬局方に見られた向精神・神経薬の変遷(その二) 日本薬

局方における臭化カリウムの規格・試験法の変遷ならびに米
国・英国薬局方との対比について」柳沢清久『薬史学雑誌』二五(二)二二八〇三〇四

「医薬科学技術の近現代素描(二) 近世および近代医薬科学技
術の日本への導入と展開、その社会的背景」山川浩司『薬史学
雑誌』二五(一)一〇一三

「近代日本医薬品産業の發展(その二) 明治初期より初版日本薬
局方公布の明治一九年(一八八六)までの医薬品事業」山田久
雄『薬史学雑誌』二五(一)五五〇六九

57 蘭学 史

「一八、一九世紀のヨーロッパ社会の構造と医療——蘭学のモデル
の学理的性格について——」石田純郎『実学史研究』(VI)二一
〇七〇

「朝鮮の西学と日本の蘭学——西洋学を受容に際しての日朝两国の
比較——」石田純郎『日蘭学会会誌』一五(一)一五〇二八

「美濃の蘭学と写真術」遠藤正治『実学史研究』(VI)七二〇一
〇六

「蘭学重宝記の不可思議」下山純正『洋学資料による日本文化史
の研究』(III)一〇一五

59 その他

「西洋の薬壺(アボカリー・ジャー)」酒井シヅ『クリニシアン』
三七(一)二〇四

- 「表紙のことは 穿頭術」酒井シヅ『手術』四四(一)二三
 「表紙のことは 焼灼術」酒井シヅ『手術』四四(二)一六二
 「表紙のことは 造鼻術」酒井シヅ『手術』四四(四)三九〇
 「表紙のことは 一四世紀初頭の解剖学講義」酒井シヅ『手術』四四(五)五一三
 「表紙のことは スウーの携外用外科道具」酒井シヅ『手術』四四(六)六四六
 「表紙のことは バドワ大学」酒井シヅ『手術』四四(七)九一
 二
 「表紙のことは 瀉血とケタムの医学書」酒井シヅ『手術』四四(八)一〇六一
 「表紙のことは 烙鉄」酒井シヅ『手術』四四(九)一二四六
 「表紙のことは G. Dupuytren の外科道具」酒井シヅ『手術』四四(一〇)一三五九
 「表紙のことは Christian Albert Theodor Billroth (一八二九〜九四)」酒井シヅ『手術』四四(一一)一六一七
 「表紙のことは Scutetus の乳癌の手術」酒井シヅ『手術』四四(一二)一八九〇
 「現代医療を語る 歴史からみる現代医療」立川昭二、中川米造 Medical News (三二二) 二〜六
 「京都医学図書館の設立について」寺畑喜朔『医譚』(五八)三五二七〜三五三六
 「医の博物館オープン」中原泉『日本歯科医史学会々誌』一六(三)一六七〜一七〇

「座談会 日本人と葉」藤井康男、酒井シヅ、松井寿『ジャストナウ (JT)』(四)一〜七

「医の博物館について」本間邦則『医譚』(五八)三五三七〜三五三九

「半島韓医学と島国日本医学」三木栄『日本医事新報』(三四五三)六一

「身体とはなにか(五) 身体思想の基礎」養老孟司『中外医業』四三(五〜六)二七四〜二七六

「医史学と私」大滝紀雄『日本医史学雑誌』三六(二)一三九〜一四六

「医史学と私」梶田昭『日本医史学雑誌』三六(三)二五四〜二六三

「医史学と私」杉田暉道『日本医史学雑誌』三六(三)二六四〜二七〇

「医史学と私—日本眼科学史研究の回顧—」福島義一『日本医史学雑誌』三六(三)二四八〜二五三

「医史学と私—地域に於ける先哲顕彰事業とのかかわりにふれつ—」江川義雄『日本医史学雑誌』三六(四)四四三〜四四八

「医史学と私」土屋重朗『日本医史学雑誌』三六(四)四三五〜四四二

60 中国語文献

「記念白求恩同志誕辰一〇〇周年」編集部『中華医史雑誌』二〇(一)一

- 「中國醫學史研究開拓者——陳邦賢」張恩豐『中華醫史雜誌』二〇〇(一)二~六
- 「說陳邦賢先生三部『中國醫學史』」璩趙瑤『中華醫史雜誌』二〇〇(一)七~一〇
- 「陳邦賢先生對中國疾病史研究的貢獻」蔡景峰『中華醫史雜誌』二〇〇(一)一一~一三
- 「陳邦賢先生早期醫學史研究工作」王致譜『中華醫史雜誌』二〇〇(一)一四~一六
- 「醫學史家陳邦賢教授的人格修養與學術修養」陳定閔『中華醫史雜誌』二〇〇(一)一七~一九
- 「解放戰爭時華北部隊的衛生防病工作」閻文仲『中華醫史雜誌』二〇〇(一)二〇~二四
- 「我國收回檢疫主權的鬭爭」楊上池『中華醫史雜誌』二〇〇(一)二五~二七
- 「古代疫病流行的諸種因素初探」張志斌『中華醫史雜誌』二〇〇(一)二八~三五
- 「顛顛診法考」靳士英『中華醫史雜誌』二〇〇(一)三六~三九
- 「對金元醫學爭鳴的一點看法」劉唐祥『中華醫史雜誌』二〇〇(一)四〇~四一
- 「黃遵憲對東洋醫學史的研究」姚昌綬『中華醫史雜誌』二〇〇(一)四二~四八
- 「行軍血紅蛋白尿疾病史」張友桐『中華醫史雜誌』二〇〇(一)四九~五四
- 「我國關於人工培育真菌的最早記載」馮漢鏞『中華醫史雜誌』二〇〇(一)五五~五七
- 「閩東畲族醫藥衛生情況的初步調查」陳沢遠『中華醫史雜誌』二〇〇(一)五八~六三
- 「傷寒論·厥陰篇」的錯簡問題」洪貫之『中華醫史雜誌』二〇〇(一)六四
- 「有闕達文的一些記載」『中華醫史雜誌』二〇〇(一)六六
- 「措齒方歌出處正誤」『中華醫史雜誌』二〇〇(一)一〇〇
- 「一八世紀的美國解剖學家」『中華醫史雜誌』二〇〇(一)一二七
- 「李濂生平考」『中華醫史雜誌』二〇〇(一)四一
- 「韓祇和考」『中華醫史雜誌』二〇〇(一)四八
- 「体外心臟按壓術追溯」『中華醫史雜誌』二〇〇(一)五四
- 「介紹『醫學史文獻資料集』」『中華醫史雜誌』二〇〇(一)五七
- 「藏醫歷算大師欽繞羅布佉略」強巴赤烈『中華醫史雜誌』二〇〇(一)六五~六七
- 「淺談瑤族的衛生習俗與醫藥」何最武、莫蓮英『中華醫史雜誌』二〇〇(一)六八~七〇
- 「淺述瘧疾對『斯色』病的認識」郝応芬『中華醫史雜誌』二〇〇(一)七一~七三
- 「解放戰爭時期我軍戰傷救治技術的應用與發展」鮑學溫『中華醫史雜誌』二〇〇(一)七四~七八
- 「一九四九~一九八七年我國的醫學檢驗教育」李仲興『中華醫史雜誌』二〇〇(一)七九~八二
- 「牛痘初伝我國史略及其意義」楊家茂『中華醫史雜誌』二〇〇(一)八三~八五

- 「廣東醫學求益社考」謝煒南『中華醫史雜誌』二〇(二)八六～九〇
- 「陸淵雷先生的學術思想」陳健民『中華醫史雜誌』二〇(二)九一～九五
- 「馬王堆醫書中時間醫學思想探討」胡劍北『中華醫史雜誌』二〇(二)九六～九九
- 「孫思邈與峨嵋山」鄧家林、劉曉春『中華醫史雜誌』二〇(二)九九～一〇一
- 「杜任醫事鈞沈」張宗棟『中華醫史雜誌』二〇(二)一〇二～一〇三
- 「古羅馬的藥學及其貢獻」宋之琪『中華醫史雜誌』二〇(二)一〇四～一〇九
- 「歐洲德語區外科的發展一瞥」柯勇『中華醫史雜誌』二〇(二)一一〇～一一四
- 「消化道內窺鏡發展簡史」井元勛『中華醫史雜誌』二〇(二)一一五～一一八
- 「現存中醫按摩與推拿文獻初考(提要)」盧垂麗『中華醫史雜誌』二〇(二)一一九～一二四
- 「仙授理傷統斷秘方」非唐代著作考」于文忠『中華醫史雜誌』二〇(二)一二五～一二八
- 「五十二病方箋識二則」『中華醫史雜誌』二〇(二)七〇
- 「一八世紀歐洲對傷寒病的認識」『中華醫史雜誌』二〇(二)七八
- 「組織創始比沙」『中華醫史雜誌』二〇(二)九〇
- 「千金翼方」引用當代歷史文獻質疑」『中華醫史雜誌』二〇(二)九五
- 「五十二病方」// 罷合」考」『中華醫史雜誌』二〇(二)一〇三
- 「一九世紀物理化學對醫學的影響」『中華醫史雜誌』二〇(二)一〇九
- 「五十二病方」// 大帶」與」摺」考」『中華醫史雜誌』二〇(二)一四一
- 「五十二病方」// 井上壽醫処土」釈義」『中華醫史雜誌』二〇(二)一八八
- 「肌電圖小史」『中華醫史雜誌』二〇(二)封三
- 「非州睡眠病的早期研究」『中華醫史雜誌』二〇(二)封三
- 「民國時期我國的法醫學」何頌躍『中華醫史雜誌』二〇(二)一二九～一三四
- 「發展中的甘洛果醫療衛生事業」倪國平『中華醫史雜誌』二〇(二)一三五～一三七
- 「醫生稱謂考」張宗棟『中華醫史雜誌』二〇(三)一三八～一四七
- 「中醫藥美國的歷史與現狀」蔡捷恩『中華醫史雜誌』二〇(三)一四八～一五四
- 「早期中西解剖活動初探」黎云『中華醫史雜誌』二〇(三)一五五～一六一
- 「西方醫學传入中國後」傷寒論」研究的進展」王三虎『中華醫史雜誌』二〇(三)一六二～一六五
- 「日本明治時代細菌學」馬書明『中華醫史雜誌』二〇(三)一六六～一六九

- 「干擾素發現研究及應用史略」王延光『中華醫史雜誌』二〇(三)一七〇～一七三
- 「黔東南侗族醫學調查」陸科閔『中華醫史雜誌』二〇(三)一七四～一七七
- 「葡萄考」徐利國『中華醫史雜誌』二〇(三)一七八～一七九
- 「閩純靈丹」「胎產心法」郭君双、田代華『中華醫史雜誌』二〇(三)一八〇～一八三
- 「外台秘要」「張文仲方」考」黃斌、趙昂之『中華醫史雜誌』二〇(三)一八四～一八六
- 「新修本草」載藥數考」齊云『中華醫史雜誌』二〇(三)一八七～一八九
- 「柯達時寄楊守敬書信六則」劉信芳『中華醫史雜誌』二〇(三)一九〇～一九二
- 「潘瓊生活時代小考」『中華醫史雜誌』二〇(三)一六五
- 「馬迪根的生理實驗」『中華醫史雜誌』二〇(三)一六五
- 「一九世紀德國著名的解剖學家亨雷」『中華醫史雜誌』二〇(三)一八九
- 「法蘭西生理學佻盧竜」『中華醫史雜誌』二〇(三)一九二
- 「回族醫藥學術討論會在西安召開」『中華醫史雜誌』二〇(三)一三四
- 「中華醫學會北京分會醫史學會召開學術報告會」『中華醫史雜誌』二〇(三)一三七
- 「中華醫學雜誌英文版第三次全國編委會在南京召開」『中華醫史雜誌』二〇(三)一六一
- 「中華醫學會第九屆全國醫史學術會議在蘇州市召開」『中華醫史雜誌』二〇(三)一八六
- 「美國訪問學者費俠利教授作學術講演」『中華醫史雜誌』二〇(三)封三
- 「漢以前脈法發展演變之源流」廖育群『中華醫史雜誌』二〇(四)一九三～一九九
- 「丹溪學說與明代前期醫學思想」薛益明『中華醫史雜誌』二〇(四)二〇〇～二〇一
- 「火針的起源與發展」高希言『中華醫史雜誌』二〇(四)二〇三～二〇五
- 「中國愛國衛生運動史略」彭先導『中華醫史雜誌』二〇(四)二〇六～二一一
- 「陝西防疫處的創立及其主要貢獻」辛智科『中華醫史雜誌』二〇(四)二一二～二一五
- 「我國第一家針灸教育機構」謝永光『中華醫史雜誌』二〇(四)二一六～二一七
- 「司法精神病學的歷史」程之范、李從培『中華醫史雜誌』二〇(四)二一八～二二二
- 「腫瘤學簡史」高潮、夏正剛『中華醫史雜誌』二〇(四)二二三～二二八
- 「古越人醫藥衛生略論」林蔚文『中華醫史雜誌』二〇(四)二二三～二二八
- 「藏族醫史學家第巴·桑結嘉錯」陶·蘇和『中華醫史雜誌』二〇(四)二二三～二三五

『開宝本草』研探」尚志鈞『中華醫史雜誌』二〇(四)二三六
～二三九

『本草綱目拾遺』成書考」陳修源『中華醫史雜誌』二〇(四)
二四〇～二四一

『新修本草』藥品總數分歧之由來」洪貫之『中華醫史雜誌』二
〇(四)二四二～二四三

「七情表」再校」林娜、高曉山『中華醫史雜誌』二〇(四)二
四四～二四六

『中國醫學百科全書·醫學史』中「日醫學交流」條若干史實的商
榷」史世勤『中華醫史雜誌』二〇(四)二四七～二四八

「關於中日醫學交流史的兩個問題」王有生『中華醫史雜誌』二〇
(四)二四九～二五一

「第六屆國際中國科技史學術會議概況」伍史文『中華醫史雜誌』
二〇(四)二五二～二五五

「藥瓶芸術」『中華醫史雜誌』二〇(四)一九九

「油浸接物鏡的發明人」『中華醫史雜誌』二〇(四)一九九

「一九世紀意大利的組胚學家」『中華醫史雜誌』二〇(四)一九九

「國醫師」之由來」『中華醫史雜誌』二〇(四)二〇一

「維生素的最早發現者——愛克曼」『中華醫史雜誌』二〇(四)二
〇五

「文芸復興時期的產科學」『中華醫史雜誌』二〇(四)二一一

「文芸復興時期的英國外科學家」『中華醫史雜誌』二〇(四)二一
一

『五十二病方』「頭脂」積義」『中華醫史雜誌』二〇(四)二二二

「化學療法的奠基者——杜馬克」『中華醫史雜誌』二〇(四)二二三
「中醫小史」『中華醫史雜誌』二〇(四)二三五

「順勢療法」『中華醫史雜誌』二〇(四)二三九

「最早做眼球摘出術的人」『中華醫史雜誌』二〇(四)二四三

「十六世紀巴累以外的外科改革者」『中華醫史雜誌』二〇(四)二
四三

「莫千尼的學生巴尼奇」『中華醫史雜誌』二〇(四)二四六

「足臂十一脉灸經」「腧」考」『中華醫史雜誌』二〇(四)二四八
以上

61 歐文文獻

HARLEY, David: Historians as Demonologists: The Myth
of the Midwife-witch. SOC. HIST. MED. 3 (1), 1~26

LANDERS, John: Age Patterns of Mortality in London Dur-
ring the 'Long Eighteenth Century: A Test of the 'High
Potential' Model of Metropolitan Mortality. SOC. HIST.
MED. 3 (1), 27~60

MARKS, Lara: 'Dear Old Mother Levy's': The Jewish
Maternity Home and Sick Room Helps Society 1895~1939.
SOC. IST. MED. 3 (1), 61~88

SHORTER, Edward: Private Clinics in Central Europe, 1850
~1933. SOC. HIST. MED. 3 (2), 159~195

SMITH, F. B.: The Contagious Diseases Act Reconsidered.
SOC. HIST. MED. 3 (2), 197~215

- RAPP, Dean: The Early Discovery of Freud by the British General Public, 1912~1919. SOC. HIST. MED. 3 (3), 217~243
- GETZ, Faye: Medical Practitioners in Medieval England. SOC. HIST. MED. 3 (2), 245~283
- GREATON, Heather: Starting Research in Medical History: Preparing the Ground. SOC. HIST. MED. 3 (2), 285~289
- GILADI, Avner: Infants, Children and Death in Medieval Muslim Society. SOC. HIST. MED. 3 (3), 345~368
- LANE, Joan: Eighteenth-Century Medical Practice: A Case Study of Bradford Wilmer, Surgeon of Coventry, 1737~1813. SOC. HIST. MED. 3 (3), 369~386
- MITCHELL, Allan: An Inexact Science: The Statistics of Tuberculosis in Late Nineteenth-Century France. SOC. HIST. MED. 3 (3), 387~403
- SOLOMON, Susan Gross: The Limits of Government Patronage of Science: Social Hygiene and the Soviet State, 1920~1930. SOC. HIST. MED. 3 (3), 405~435
- FAURE, Olivier: The Social History of Health in France: A Survey of Recent Developments. SOC. HIST. MED. 3 (3), 437~451
- COOK, Harold J.: Practical medicine and the British armed „forces after the “Glorious Revolution. MED. HIST. 34 (1), 1~26
- MAEHLE, Andreas-Holger: Literary responses to animal experimentation in seventeenth- and eighteenth-century Britain. MED. HIST. 34 (1), 27~51
- HUGHES, R. Elwyn: The rise and fall of the “antiscorbutics”: some notes on the traditional cures for “land scurvy”. MED. HIST. 34 (1), 52~64
- LIEBENAU, Jonathan: Paul Ehrlich as a commercial scientist and research administrator. MED. HIST. 34 (1), 65~78
- WAINWRIGHT, Milton: Besredka’s “antivirus” in relation to Fleming’s initial views on the nature of penicillin. MED. HIST. 34 (1), 79~85
- MARCOMBE, David/MANCHESTER, Keith: The Melton Mowbray “leper head”: an historical and medical investigation. MED. HIST. 34 (1), 86~91
- GEARY, Laurence M.: O’Connorite Bedlam: Feargus and his grand-nephew, Arthur. MED. HIST. 34 (2), 125~143
- TANSEY, E. M.: Illustrations from the Wellcome Institute Library: Sir Henry Dale’s laboratory notebooks. MED. HIST. 34 (2), 199~209
- WILSON, J. V. Kinnier/REYNOLDS E. H.: Texts and documents: Translation and analysis of a cuneiform text forming part of a Babylonian treatise on epilepsy. MED. HIST. 34 (2), 185~198

- BLOY, Marjorie: In spite of medical help: the puzzle of an eighteenth-century Prime Minister's illness. *MED. HIST.* **34** (2), 178~184
- SAVONA-VENTURA, C.: Reproductive performance on the Maltese Islands during the Second World War. *MED. HIST.* **34** (2), 164~177
- LÖWY, Ilana: Yellow fever in Rio de Janeiro and the Pasteur Institute Mission (1901~1905): the transfer of science to the periphery. *MED. HIST.* **34** (2), 144~163
- RUSSELL, G. A.: Physicians at the Ottoman court. *MED. HIST.* **34** (3), 243~267
- DOHERTY, Francis: The Anodyne Necklace: a quack remedy and its promotion. *MED. HIST.* **34** (3), 268~293
- WHITROW, Magda: Wagner-Jauregg and fever therapy. *MED. HIST.* **34** (3), 294~310
- ADAMSON, P. B.: Medical complications associated with security and control of prisoners of war in the ancient Near East. *MED. HIST.* **34** (3), 311~319
- WYATT, H. V.: Robert Pulvertaft's use of crude penicillin in Cairo. *MED. HIST.* **34** (3), 320~326
- HALL, Lesley A.: Illustrations from the Wellcome Institute Library: The Eugenics Society Archives in the Contemporary Medical Archives Centre. *MED. HIST.* **34** (3), 327~333
- CASELL, Ronald D.: Lessons in medical politics: Thomas Wakley and the Irish medical charities. *MED. HIST.* **34** (4), 412~423
- GRELL, Ole Peter: Plague in Elizabethan and Stuart London: the Dutch response. *MED. HIST.* **34** (4), 424~439
- MICALE, Mark S.: Charcot and the idea of hysteria in the male: gender, medical science, and medical diagnostics in late nineteenth-century France. *MED. HIST.* **34** (4), 363~411
- BONNER, Thomas Neville: Abraham Flexner and the Historians. *J. HIST. MED. ALLIED. SCI.* **45** (1), 3~10
- MILLER, Gordon L.: Literacy and the Hippocratic Art: Reading, Writing, and Epistemology in Ancient Greek Medicine. *J. HIST. MED. ALLIED. SCI.* **45** (1), 11~40
- CULE, John: The Rev. John Wesley, M. A. (Oxon.) 1703~1791: "The Naked Empiricist" and Orthodox Medicine. *J. HIST. MED. ALLIED. SCI.* **45** (1), 41~63
- Muraskin, William: Individual Rights Versus the Public Health: The Controversy over the Integration of Retarded Hepatitis B Carriers into the New York City Public School System. *J. HIST. MED. ALLIED. SCI.* **45** (1), 64~98
- CRANFIELD, F.: Paul Erwin H. Ackerknecht, 1906~1988 Some Memories. *J. HIST. MED. ALLIED. SCI.* **45** (2),

- 145~149
- JACKSON, Stanley W.: The Use of the Passions in Psychological Healing. *J. HIST. MED. ALLIED. SCI.* **45** (2), 150~175
- HORSTMANSHOFF, H. F. J.: The Ancient Physician: Craftsman or Scientist? *J. HIST. MED. ALLIED. SCI.* **45** (2), 176~197
- SINDING, Christian: Clinical Research and Basic Science: The Development of the Concept of End-Organ Resistance to a Hormone. *J. HIST. MED. ALLIED. SCI.* **45** (2), 198~232
- HOLMES, Fredric L.: The Responsible Medical Historian. *J. HIST. MED. ALLIED. SCI.* **45** (3), 277~284
- BYLEBYL, Jerome J.: Interpreting the Fasciculo Anatomy Scene. *J. HIST. MED. ALLIED. SCI.* **45** (3), 285~316
- FYE, W. Bruce: Vasodilator Therapy for Angina Pectoris: The Intersection of Homeopathy and Scientific Medicine. *J. HIST. MED. ALLIED. SCI.* **45**(3), 317~340
- GEISON, Gerald L.: Pasteur, Roux, and Rabies: Scientific versus Clinical Mentalities. *J. HIST. MED. ALLIED. SCI.* **45** (3), 341~365
- WILSON, Leonard G.: The Historical Decline of Tuberculosis in Europe and America: Its Causes and Significance. *J. HIST. MED. ALLIED. SCI.* **45** (3), 366~396
- BYNUM, W. F.: "C'est un malade": Animal Models and Concepts of Human Diseases. *J. HIST. MED. ALLIED. SCI.* **45** (3), 397~413
- ATWATER, Edward C.: Of Grandes Dames, Surgeons, and Hospitals: Batavia, New York, 1900~1940. *J. HIST. MED. ALLIED. SCI.* **45** (3), 414~451
- LONG, Diana E.: Moving Reprints: A Historian Looks at Sex Research Publications of the 1930s. *J. HIST. MED. ALLIED. SCI.* **45** (3), 452~468
- LUDMERER, Kenneth M.: The Origins of Mount Sinai School of Medicine. *J. HIST. MED. ALLIED. SCI.* **45** (3), 469~489
- COOK, Harold J.: The Rose Case Reconsidered: Physicians, Apothecaries, and the Law in Augustan England. *J. HIST. MED. ALLIED. SCI.* **45** (4), 527~555
- BONNER, Thomas Neville: Friedrich von Müller of Munich and the Growth of Clinical Science in America, 1902~14. *J. HIST. MED. ALLIED. SCI.* **45** (4), 556~569
- FEE, Elizabeth: Public Health in Practice: An Early Confrontation with the 'Silent Epidemic' of Childhood Lead Paint Poisoning. *J. HIST. MED. ALLIED. SCI.* **45** (4), 570~606
- SOLOMON, Susan Gross: Social Hygiene in Soviet Medical Education, 1922~30. *J. HIST. MED. ALLIED. SCI.* **45** (4),

- 607~643
- GETZ, Faye Marie: Charity, Translation, and the Language of Medical Learning in Medieval England. *BULL. HIST. MED.* **64** (1), 1~17
- BONNER, Thomas Neville: The German Model of Training Physicians in the United States, 1870~1914: How Closely Was It Followed? *BULL. HIST. MED.* **64** (1), 18~34
- COOMBS, Jan: Rural Medical Practice in the 1880s: A View from Central Wisconsin. *BULL. HIST. MED.* **64** (1), 35~62
- BRODMAN, Estelle/CARRICK, Elizabeth B.: Texts and Documents: American Military Medicine in the Mid-Nineteenth Century: The Experience of Alexander H. Hoff, M. D. *BULL. HIST. MED.* **64** (1), 63~78
- HOLIFIELD, E. Brooks: Notes and Comments: The Wealth of Nineteenth-Century American Physicians. *BULL. HIST. MED.* **64** (1), 79~85
- ROSENBERG, Charles E.: Making it in Urban Medicine: A Career in the Age of Scientific Medicine. *BULL. HIST. MED.* **64** (2), 163~186
- MAZUMDAR, Pauline M. H.: Blood and Soil: The Serology of the Aryan Racial State. *BULL. HIST. MED.* **64** (2), 187~219
- McCANDLESS, Peter: "A House of Cure": The Antebellum South Carolina Lunatic Asylum. *BULL. HIST. MED.* **64** (2), 220~242
- OUDSHOORN, Nelly: On Measuring Sex Hormones: The Role of Biological Assays in Sexualizing Chemical Substances. *BULL. HIST. MED.* **64** (2), 243~261
- Pioneering in Family-Centered Maternity and Infant Care: Edith B. Jackson and the Yale Rooming-in Research Project SARA LEE SILBERMAN. *BULL. HIST. MED.* **64** (2), 262~287
- PAULY, Philip J.: The Struggle for Ignorance about Alcohol: American Physiologists, Wilbur Olin Atwater, and the Woman's Christian Temperance Union. *BULL. HIST. MED.* **64** (3), 366~392
- WEISZ, George: Water Cures and Science: The French Academy of Medicine and Mineral Water in the Nineteenth Century. *BULL. HIST. MED.* **64** (3), 393~416
- FROST, Richard H.: The Pueblo Indian Smallpox Epidemic in New Mexico, 1898~1899. *BULL. HIST. MED.* **64** (3), 417~445
- ALLAN, Nigel: Hospice to Hospital in the Near East: An Instance of Continuity and Change in Late Antiquity. *BULL. HIST. MED.* **64** (3), 446~462
- ESTES, J. Worth: American Association for the History of Medicine: Report of the Sixty-third Annual Meeting.

- BULL. HIST. MED. 64 (3), 463~472
- TOMES, Nancy: The Private Side of Public Health: Sanitary Science, Domestic Hygiene, and the Germ Theory, 1870~1900. BULL. HIST. MED. 64 (4), 509~539
- STOWE, Steven M.: Obstetrics and the Work of Doctoring in the Mid-Nineteenth-Century American South. BULL. HIST. MED. 64 (4), 540~566
- GILLETT, Mary C.: U.S. Army Medical Officers and Public Health in the Philippines in the Wake of the Spanish-American War, 1898~1905. BULL. HIST. MED. 64 (4), 567~587
- GILMAN, Sander L.: The Jewish Body: A "Footnote". BULL. HIST. MED. 64 (4), 588~602
- GOLDMAN, Stefan: Zur Ständesatire in Bernardino Ramazzinis 'De Morbis Artificum Diatriba'. Sudhoffs Archiv 74 (1), 1~21
- OELSNER, Reiner: Albert Schweitzers Ostafrikapläne und die Berliner Mission. Nach einem bisher unveröffentlichten Briefwechsel der Jahre 1929 bis 1936. Sudhoffs Archiv 74 (1), 45~74
- LITTGAR, Klaus Walter: Dr. med. Johann Scheifler (1612~1671) und seine Bibliothek. Sudhoffs Archiv 74(1), 75~103
- MODEL, Anselm: Kant und die Medizin der Aufklärung. Sudhoffs Archiv 74 (1), 112~116
- HARPER, Donald: The Conception of Illness in Early Chinese Medicine, as Documented in Newly Discovered 3rd and 2nd Century B. C. Manuscripts (Part 1). Sudhoffs Archiv 74 (2), 310~235
- GRAF, Klaus: Nikolaus vom Schwert (um 1400), ein Sohn des Schwäbisch Gmünder Arztes Peter von Grünenberg. Sudhoffs Archiv 74 (2), 236~238